

Canon

For Windows

IMAGE*e*CREATEDBL
イメージクリエイターディービーエル
カラーカードプリンタ対応
名刺作成ソフトウェア

USER'S MANUAL

キヤノンファインテック株式会社

目次

はじめに	1
1. 「ImageCreate DBL」の概要	1
2. サポートセンターへのお問い合わせ	1
3. 必要な機器構成	2
4. 本マニュアルについて	2
セットアップ	3
1. セットアップ先	3
2. セットアップの開始	3
3. アンインストールの方法	7
各部の名称と画面構成	9
1. 画面構成	9
2. ツールバー	10
3. ポップアップメニュー	12
レッスン = 操作の流れと概要 =	13
1. プログラムを起動する	13
2. 用紙設定から使用する用紙を選択する	14
3. 文字を入力する	15
4. 画像を貼り付ける	17
5. 作成したオブジェクトの移動	18
6. カード柄の設定	18
7. 作成したデータの保存	20
8. 印刷	21

目次

各オブジェクトの機能と使用方法	23
1. オブジェクトについて.....	23
1-1 オブジェクトの作成.....	23
1-2 オブジェクトの選択.....	23
1-3 範囲による選択.....	24
1-4 オブジェクトの移動・変形.....	24
1-5 オブジェクトの削除.....	25
1-6 オブジェクトの設定／再編集.....	25
1-7 オブジェクトの重なり順.....	25
1-8 オブジェクトのグループ化とグループ化解除.....	26
1-9 オブジェクトのロックとロック解除.....	26
2. 文字オブジェクト.....	27
2-1 文字オブジェクトの基本操作.....	27
2-2 文字オブジェクトの機能.....	27
① 枠サイズ優先文字と文字サイズ優先文字.....	27
② 縦組み文字.....	28
③ 文字列の整列.....	28
2-3 設定ダイアログ内の機能.....	29
3. 図形オブジェクト.....	33
3-1 図形オブジェクトの基本操作.....	33
3-2 図形オブジェクトの設定ダイアログ.....	34
4. 画像オブジェクト.....	35
4-1 画像オブジェクトの基本操作.....	35
4-2 画像オブジェクトの貼り付け.....	36
■ 他フォルダからの画像の貼り付け.....	36
■ クリップボードを使用した貼り付け.....	36
4-3 スキャナ／デジタルカメラからの入力.....	36
4-4 画像加工ツールの使用方法と機能.....	38
■ 画像切抜き.....	39
■ 単色効果.....	39
■ ハーフトーン.....	40
■ ぼかし.....	40
■ 回転.....	41

目次

■背景色	41
■出力形式	41
4-5 画像オブジェクトの設定ダイアログ	42
5. ナンバリングオブジェクト	43
5-1 ナンバリングオブジェクトの基本操作	43
5-2 ナンバリングオブジェクトの機能と設定ダイアログ	45
6. バーコードオブジェクト	46
6-1 バーコードオブジェクトの基本操作	46
6-2 バーコードオブジェクトの機能と設定ダイアログ	48
6-3 搭載されているバーコードの仕様	51
■[JAN8/JAN13]	51
■[Code39]	51
■[Code128]	52
■[NW7]	52
■[ITF]	52
7. 差込オブジェクト	53
7-1 差込オブジェクトの基本操作	53
7-2 差込データの加工機能	56
●性と名に分割された氏名を、ひとつに連結したい場合	56
●「都道府県」「住所1」「住所2」と分割された住所を連結したい場合	57
●差込データの7桁の郵便番号を加工します	58
●JAN（8桁・13桁）バーコード	60
●マクロ編集ガイド	61
7-3 通常の文字を差込文字に変換する（オブジェクト変換機能）	62

目次

デザイン・レイアウト補助機能の使用方法	65
1. 用紙の登録と変更	65
1-1 新しく用紙を登録する	65
1-2 登録されている用紙を変更する	66
1-3 登録されている用紙データを削除する	66
2. 裏面デザインと設定と表示切替	66
3. グリッド・ガイドバー機能	67
3-1 ガイドバー機能	67
■ガイドバーにオブジェクトを吸着させる	68
■複数のガイドバーを1度に指定する	68
■ガイドバーの削除	69
3-2 グリッド機能	69
■作成したオブジェクトをグリッドに吸着させる	69
4. オブジェクトの整列機能とカード面中央配置	70
4-1 オブジェクト整列機能[位置揃え]	70
4-2 カード面中央揃え	71
5. カード面出力機能	71
印刷機能ガイド／その他	73
1. 印刷機能	73
2. 環境設定	78
3. 添付のサンプルデータについて	80

目次

制限事項／注意事項	83
1. 画面の色について	83
2. システムフォントについて	83
3. 添付されている画像データについて	83
4. データ差込機能について	83
5. オブジェクトの上限	83
6. フォントについて	83
7. 印刷時の文字化けについて	84
8. フロッピーディスクへの保存について	84
9. 印刷時のディスク容量	84
10. 日本語の入力	84
11. カットアンドペーストについて	84
12. EMF 画像について	84

はじめに

このたびは、「ImageCreate DBL」をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いいたします。

1. 「ImageCreate DBL」の概要

「ImageCreate DBL」は、Canonカラーカードプリンタに対応した名刺などにデザイン・印刷をする専用ソフトウェアです。ビジネス用の名刺はもちろん、デザイン要素の豊富な名刺や会員カード、社員証から診察券などまで幅広く利用できます。豊富なデザイン機能と高度な印刷機能を使用してオリジナリティあふれるカード作りにチャレンジしてください。

2. サポートセンターへのお問い合わせ

本製品の操作中に問題を生じた場合には、下記の要領で弊社お客様相談センターまでご連絡ください。
下記サポートセンターは当ソフトウェアの操作方法や発生した問題についてお応えする窓口です。
音声メッセージにしたがって『カードプリンタ』とお話ください。
(受付時間は予告無く変更する場合がございます。ご了承ください。)

2-1. お問い合わせの前に以下の事項を確認してください。

1. ご使用になられているパソコン本体のメーカー名と機種名・OSのバージョン
2. ご使用になられているプリンタ機種名と接続インターフェース・プリンタドライバのバージョン
3. 具体的な症状や疑問点(その症状が発生した手順やエラーメッセージなど)

2-2. お問い合わせは以下の方法でお願いいたします。

【お客様相談センター全国共通電話番号】 050-555-90064
(IP電話番号をご利用できない場合は、03-5428-1344)

【受付時間】 平日9:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 17:00
(土・日・祝祭日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます)

3.必要な機器構成

3-1. コンピュータ本体

日本語 Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95
が正常に動作する機種

3-2. Windows

上記の機種で動作保証されている
日本語 Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95

3-3. ディスプレイ

上記の機種で使用可能な解像度、800×600ドット以上、256色以上が表示可能な
カラーディスプレイ。(ハイカラーを推奨)

3-4. ハードディスク

本製品のインストールに必要な空き容量のあるハードディスク(最大350MB/最小20MB)

3-5. メモリ

最低メモリ: OSが正常動作するのに必要な最低メモリ(64MB以上推奨)

3-6. 対応プリンタ

Canon カラーカードプリンタ

3-7. 日本語入力システム

上記の日本語 Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95
で動作保証されている日本語入力システム(MS-IME/ATOKなど)

3-8. マウス

上記機種および上記日本語 Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95
で動作保証されているマウス

4.本マニュアルについて

本マニュアルでは、Windows上での「ImageCreate DBL」の使用方法について解説します。
ソフトウェアの設定画面は「ImageCreate DBL 1.0」を使用した例を記載しています。
本バージョンでは設定画面が一部異なる場合もありますが、基本的な操作方法は同様です。
また本書は、Windowsに関する最低限の操作(マウスの操作方法等)や用語(クリック、ドラッグ等
の用語)を習得されている方を対象に解説していますので、Windowsに関する説明は省略させて
いただきます。それぞれのマニュアルでご確認ください。

セットアップ

本章では、お客様のお使いのハードディスクにプログラムを複製し、お使いいただけるようにする作業（セットアップ）についてご説明します。
「ImageCreate DBL」が動作するために必要なファイルは全て圧縮された形でCD-ROMに収納されていますので、下記の手順に従って専用のプログラム（インストーラー）を使用してセットアップ作業を行ってください。専用のプログラムをご使用にならないでセットアップを行った場合、動作の保証はしかねますので、予めご了承ください。



注意

セットアップを開始する前に、必ず次の事柄を確認してください。

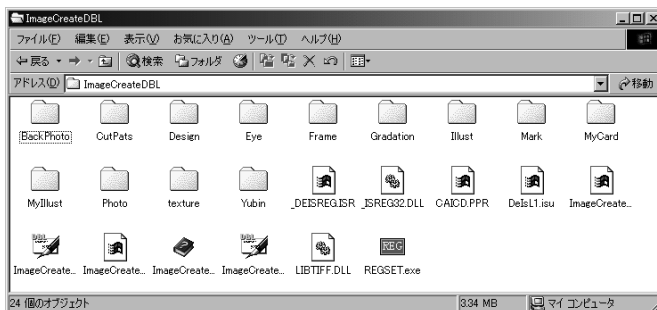
1. セットアップ先のハードディスクに約20MB（最小インストールの場合）の容量があるか。
2. 他のアプリケーションが起動されていないか。

1. セットアップ先

「ImageCreate DBL」は、特にセットアップ先を指定しなければWindowsのセットアップされているハードディスクに次のフォルダを作成して、ここにセットアップされます。

¥Program Files¥CanonAptex¥ImageCreateDBL

このフォルダの中には次のフォルダやファイルが自動的に作成されます。



Windows Vistaをご使用の場合

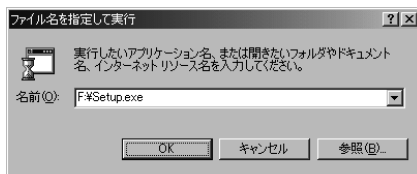
インストール時に作成された左記ImageCreateDBLフォルダ内にあるフォルダのうち、Yubinフォルダを除く全てのフォルダと、フォルダ内に保存されているファイルは、プログラムが最初に起動された時に、各ユーザーアカウント毎に、自動的に以下の場所にコピーされます。

C:\¥users¥ユーザーアカウント名¥Documents¥ImageCreateDBL

2. セットアップの開始

では、セットアップを開始します。「ImageCreate DBL」のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、次の操作を行ってください。

- ① Windowsのスタートメニューから <ファイル名を指定して実行>を選んでください。
- ② 次の画面が表示されるので、<名前> のボックスに "O:¥SETUP.EXE" と入力してください。ここで、"O" の部分はお客様のパソコンのCD-ROMドライブ ("D" "E" など、ご使用のPCにより異なります)を入力してください。

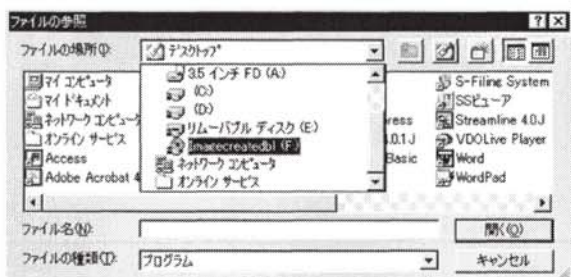


- ③ [OK] ボタンをクリックしてください。

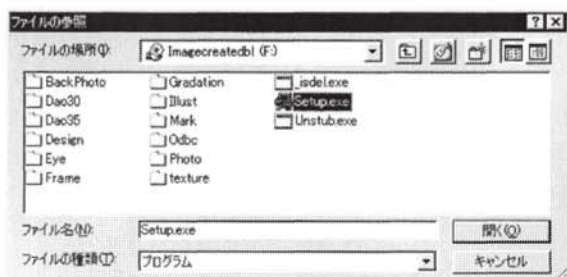
One Point

ご使用になっている PC の CD-ROM ドライブがわからない時には...

- ①②で表示されたダイアログの右下の<参照>ボタンを押してください。



- ②<ファイルの参照>ダイアログが開きますので、[ファイルの場所]欄のリストを開いてください。上図のように[ImageCreateDBL (F)]が表示されます。ココをクリックしてください。



- ③[ImageCreateDBL (F)]を指定すると下段の欄に CD-ROM 内に格納されているファイルやフォルダが一覧されます。この中から[SETUP]を選択して<開く>ボタンを押してください。
②で表示されたダイアログに戻り、<名前>の欄に指定したドライブ等が書かれています。このままの状態でも OK > ボタンを押してください。セットアップ作業が開始されます。

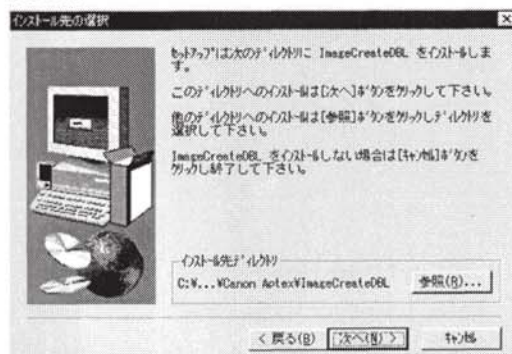
- ④しばらくすると、下図のように、「よろこそ」のダイアログが開きます。<次へ>ボタンをクリックしてください。



- ⑤ソフトウェア使用許諾所です。内容を確認いただき、<はい>ボタンをクリックしてください。



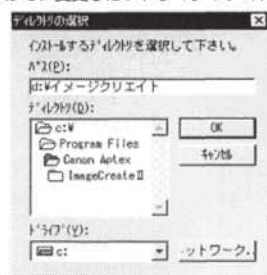
- ⑥次にインストール先の指定をします。下図のように表示されたダイアログの[インストール先ディレクトリ]には、通常Cドライブの中 の ProgramFiles フォルダ内に当プログラムのフォルダを作成しインストールするようになっています。このままでよろしければ<次へ>ボタンをクリックしてください。



One Point

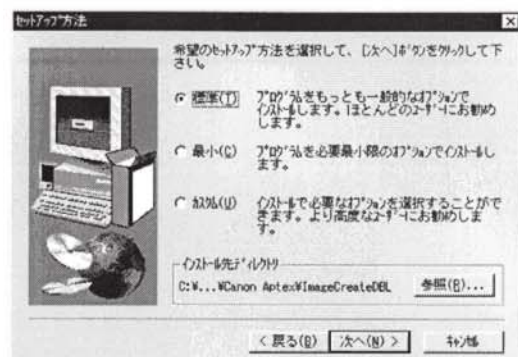
インストール先の変更をするには...

- ⑥のダイアログ中の<参照>ボタンをクリックします。以下のダイアログが表示されますので、変更したいドライブやフォルダを指定してください。



<パス>欄に直接インストール先のパスをタイプしても良いですし、下部の<ドライブ>欄から選択し、<ディレクトリ>欄から既存のフォルダを選択することもできます。このとき注意していただきたいことは、<パス>欄に「d:\」等のようにドライブは指定されていても、フォルダの指定がされていないまま作業を続けてしまうことです。この状態でインストールを行うと指定ドライブの[ルートディレクトリ]という場所にインストールされ、問題が発生することがあります。また、パスに書かれたフォルダ名が存在しない場合には、「新しくフォルダを作成しますか?」のメッセージが表示され、新規にフォルダが作成されます。

- ⑦ インストールモードを「標準」「最小」「カスタム」から選択してください。



◎標準

画像を含むすべてのファイルをインストールします。ハードディスクに約 350MB の空き容量が必要です。

◎最小

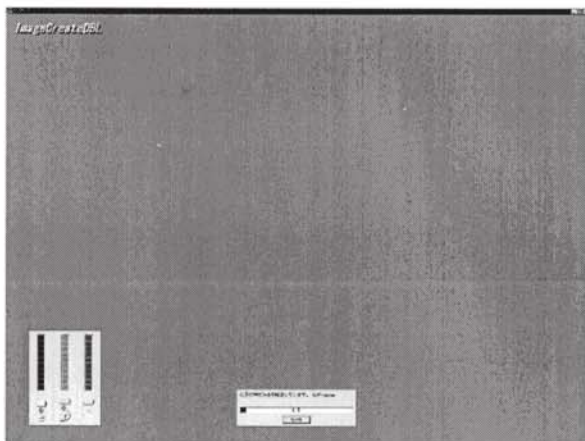
プログラムが動作するために必要な最小限のファイルだけをインストールします。ハードディスクに約 20MB の空きが必要です。

◎カスタム

インストールする項目を選択することができます。各項目を選択することで必要な空き容量が表示されます。

選択ができましたら、<次へ>ボタンをクリックします。

- ⑧ ファイルのコピーが開始され、下図のように進捗状況を示すゲージが表示されます。



- ⑨しばらくするとゲージが 100%に達し、インストールが完了し次のダイアログが表示されます。

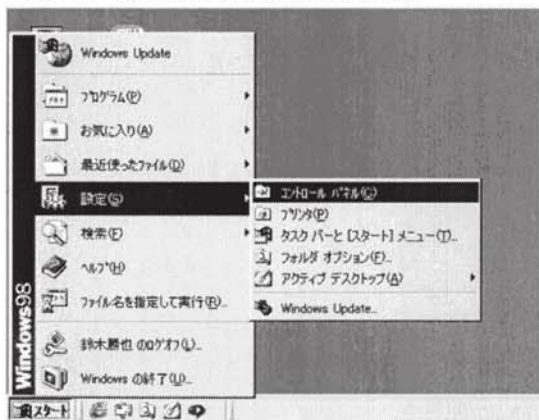


これで、インストール作業は完了しました。

3. アンインストールの方法

「ImageCreateDBL Ver1.1」をハードディスクから削除したい場合には、次の手順で作業を行ってください。

- ① Windows の<スタート>ボタンをクリックし、<設定><コントロールパネル>を選択してください。



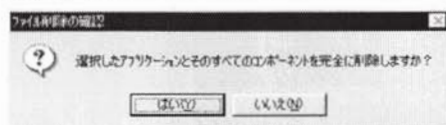
- ②コントロールパネルが開きましたら、＜アプリケーションの追加と削除＞アイコンをダブルクリックします。



- ③画面中央の一覧の中から「ImageCreateDBL Ver1.1」を探し、選択して＜追加と削除＞ボタンを押してください。



- ④下図のようなダイアログが表示されますので、＜はい＞ボタンをクリックすると、削除作業が開始されます。

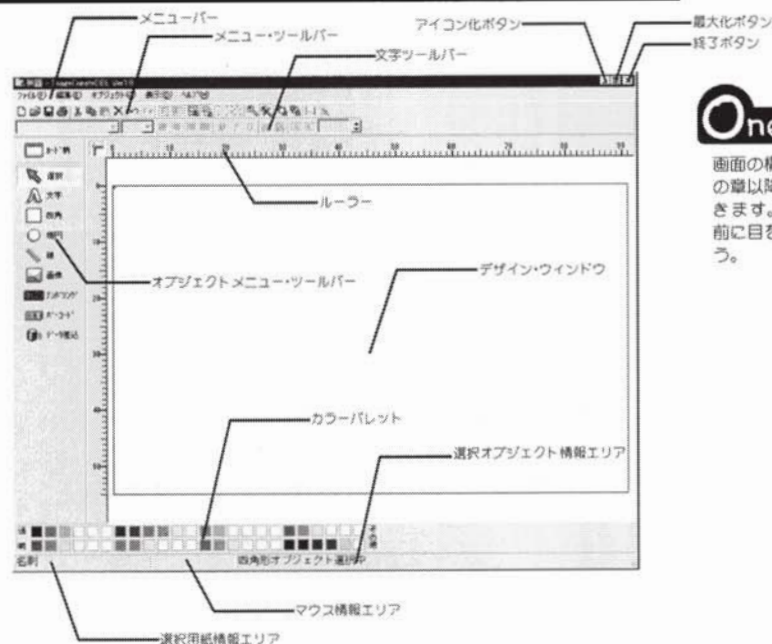


これでアンインストール作業は完了しました。

各部の名称と画面構成

「ImageCreate DBL Ver1.1」の各部の名称と画面構成を説明します。

1. 画面構成



One Point

画面の構成やボタンの名称は、この章以降の説明の中で頻繁に出てきます。プログラムを使用する前に目を通しておくといでしょう。

■ アイコン化ボタン

Windows 標準のボタンです。ウィンドウが小さくなり、タスクバーにアイコン表示されます。復元する場合は、タスクバーのアイコンをダブルクリックしてください。

■ 最大化ボタン (または、元に戻すボタン)

Windows 標準のボタンです。ウィンドウが画面全体に表示されます。最大化されたウィンドウを元に戻す場合は、同じボタンをクリックしてください。

■ 終了ボタン

Windows 標準のボタンです。このボタンで「ImageCreate DBL Ver1.1」が終了します。

■ メニューバー

「ImageCreate DBL Ver1.1」の操作を選択します。それぞれの文字にカーソルを合わせてクリックすると、サブメニューがプルダウン表示されます。

■ メニュー・ツールバー

コピー・ペースト、印刷などの基本的なコマンドや、頻繁に使用するメニューコマンドが集められボタンとして表示されています。

■ ルーラー

選択用紙に対するメモリがミリメートルで表示されます。ルーラーには、マウスの現在位置が表示されます。クリックすることでガイドラインが描画されます。

■ 選択用紙情報エリア

現在編集中の用紙の種類を表示します。

■ マウス情報エリア

現在のマウスの位置を表示します。

■ 選択オブジェクト情報エリア

現在の選ばれているオブジェクトの種類を表示します。

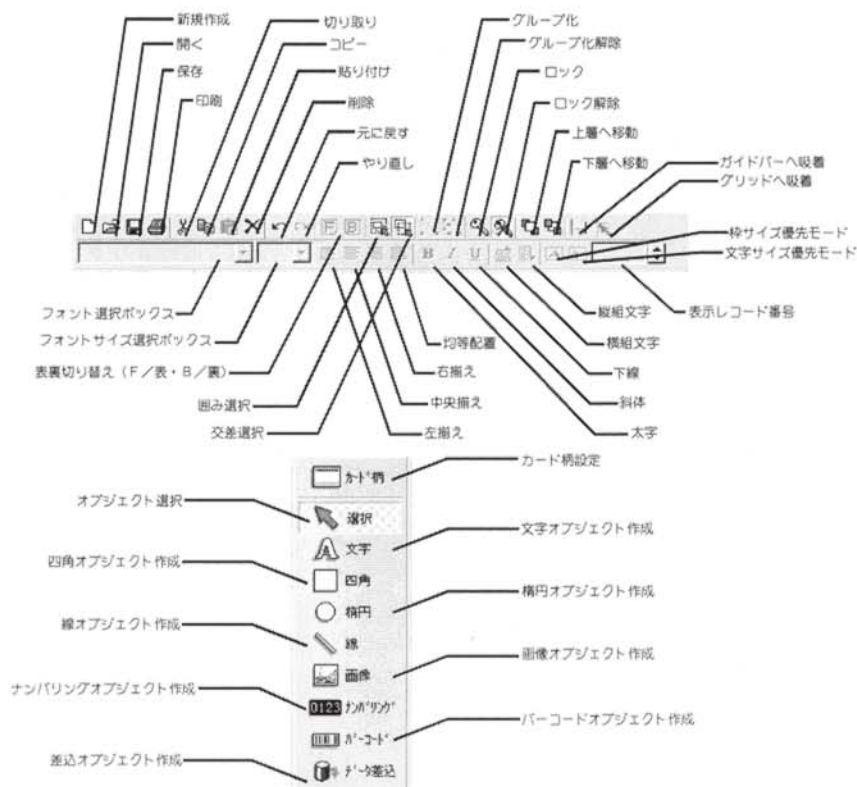
■ デザインウィンドウ

作成されたそれぞれのオブジェクトが印刷イメージで表示されます。また、編集を助けるためのガイドライン、グリッドライン(点)、右クリックによるポップアップメニュー等が表示されます。

■ カラーパレット

最も使用頻度の高い色を標準色として画面上にピックアップしてあります。オブジェクトの色を設定するために使います。

2. ツールバー



- **新規作成**
新規にファイルを作成します。
- **開く**
既存のファイルを開きます。
- **保存**
作業中のデザインウインドウを現在設定されているファイル名、フォルダに保存します。新規作成時はファイル名指定のダイアログが開きます。
- **印刷**
現在開いているデータを印刷します。
- **切り取り／コピー／貼り付け／削除**
現在選択されているオブジェクトに対して切り取り、コピー、貼り付け、削除をします。
- **元に戻す**
直前に実行した操作を無効とします。
- **やり直し**
「元に戻す」で無効にした操作を、再度有効にします。
- **表裏切り替え (F / 表 ・ B / 裏)**
このボタンを押すことで表裏の表示が切り替えられます。
- **フォント選択ボックス**
文字オブジェクトのフォントを変更します。
- **フォントサイズ選択ボックス**
文字オブジェクトのフォントサイズを変更します。
- **文字揃え (左揃え、中央揃え、右揃え、均等配置)**
文字列の配置を設定します。
- **文字スタイル (太字、斜体、下線)**
文字飾りを設定します。
- **縦組／横組文字**
文字飾りを設定します。
- **枠サイズ優先モード／文字サイズ優先モード**
文字オブジェクトのモードを枠サイズ優先／文字サイズ優先とします。
- **囲み選択／交差選択**
オブジェクトを選択する際に枠線で完全に囲まれたものだけを選択するか、枠線に交差するものも選択するかを切り替えます。
- **グループ化／グループ化解除**
複数のオブジェクトをグループ化します (またはそれを解除します)
- **ロック／ロック解除**
選択中のオブジェクトをロック、ロック解除します。ロックされたオブジェクトは一切の編集ができなくなります。
- **上層／下層へ移動**
オブジェクトの重なり順番を変更します。
- **選択**
オブジェクトの選択、移動、サイズ変更を行います。選択方式は囲み選択／交差選択のモードによって異なります。

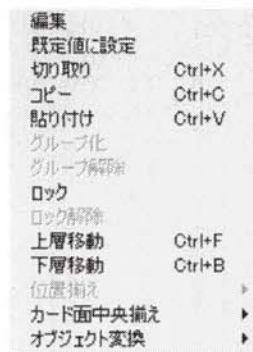
- 文字
文字オブジェクトを作成します。
- 四角
四角オブジェクトを作成します。
- 楕円
楕円オブジェクトを作成します。
- 線
線オブジェクトを作成します。
- 画像
画像オブジェクトを作成します。
- ナンバリング
ナンバリングオブジェクトを作成します。
- バーコード
バーコードオブジェクトを作成します。
- データ差込
差込オブジェクトを作成します。

3. ポップアップメニュー

既にあるオブジェクトの上で右クリックをすると、次のポップアップメニューが表示されます。

ここでも、ツールバーで行える操作とほぼ同等の操作が行えるようになっています。

このポップアップメニューだけで行える操作は次のとおりです。



- オブジェクト編集
オブジェクト設定ダイアログが表示され、さらに細かな設定ができます。なお、オブジェクト設定ダイアログはオブジェクトをダブルクリックすることでも開くことができます。
- オブジェクト位置揃え
選択した複数のオブジェクトの位置を揃えます。
- カード面中央揃え
選択したオブジェクトをデザインウィンドウ中央に移動します。
- オブジェクト変換
差込文字を通常の文字列へ。通常の文字列を差し込み文字に変換します。

レッスン = 操作の流れと概要 =

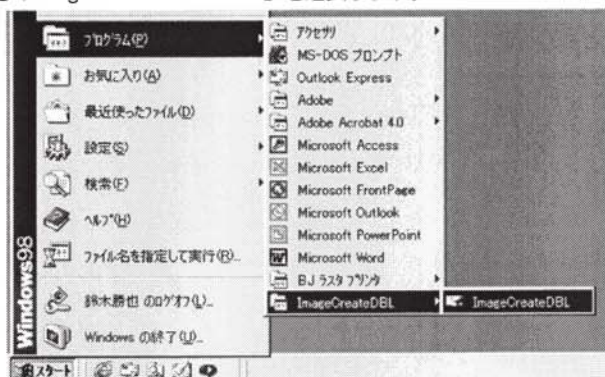
「ImageCreate DBL Ver1.1」は、キヤノン BJ カラーカードプリンタシリーズ専用の名刺作成プログラムです。プログラムに登録された用紙フォームの中から所定の用紙を選択し、カードデザインをするだけで、美しい印刷物が簡単に作成できます。また、豊富なデザイン機能やデータベースデータの差込機能を使用することで、ビジネスからホビーまで広範な用途に利用できます。

この章では、最も簡素な方法で名刺を作成する手順を紹介し、当ソフトウェアの基本的な操作の流れと概要を説明していきますので、各機能の詳細には触れません。詳細は後章でその使い方や効用とともに説明していきます。

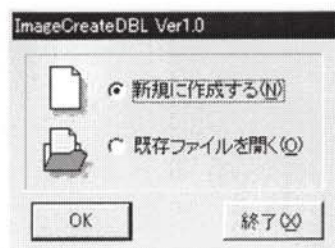
それでは、早速レッスンに入りましょう。

1. プログラムを起動する

それでは早速「ImageCreate DBL Ver1.1」を起動してみましょう。Windows を起動し、スタートメニューの<プログラム>から「ImageCreate DBL Ver1.1」をクリックし、さらに、サブメニューから「ImageCreate DBL Ver1.1」を選択します。



しばらくするとタイトル画面が表示され、次のメニュー画面が表示されます。



新規に作成する場合には[新規に作成する]を。既に作成されているファイルを開く時には[既存ファイルを開く]を選択します。ここでは、[新規に作成する]ボタンにチェックをして[OK]ボタンをクリックしましょう。



注 意 !!

●レッスンに入る前に・・・

ディスプレイのカラーモード設定

「ImageCreate DBL Ver1.1」のプログラム中の画像データは、印刷時の品質を上げるために、256色を超える色数を使用したものが多く搭載されています。そのため、お客様のディスプレイのカラーモードが 256 色以下に設定されている場合、正しい色が表示されない場合があります。正しく表示するためには、ディスプレイのカラーモードを 256 色を超える設定 (High Color または True Color) に変更してご使用ください。

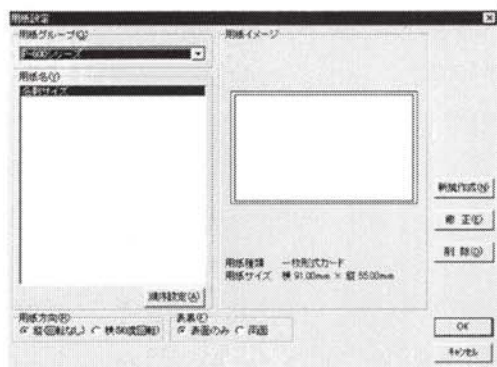
なお、256 色でご使用になっても、印刷には影響しません。

One Point

文中に「オブジェクト」という言葉が頻繁にでてきますが、これは、デザインウィンドウ上に作成された「文字」「図形」「線」「画像」「バーコード」「ナンバリング」など、デザインを構成する部品を示します。

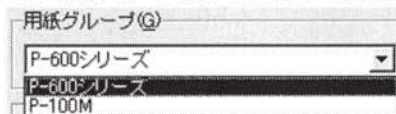
2. 用紙設定から使用する用紙を選択する

用紙設定ダイアログが開きました。このダイアログでは、使用する用紙の選択と用紙の向きを設定します。



それでは、用紙を選択してみます。まず、用紙グループ（使用機種名）を選択してください。

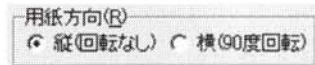
ここでは、用紙グループに「P-600 シリーズ」を選択します。



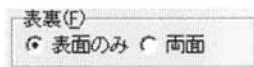
次に用紙を選択します。名刺の作成を行いますので「名刺」を選択します。



次に[用紙の向き]を選択しますが、当プリンタでは名刺横位置が「縦」となります。間違えないように注意してください。



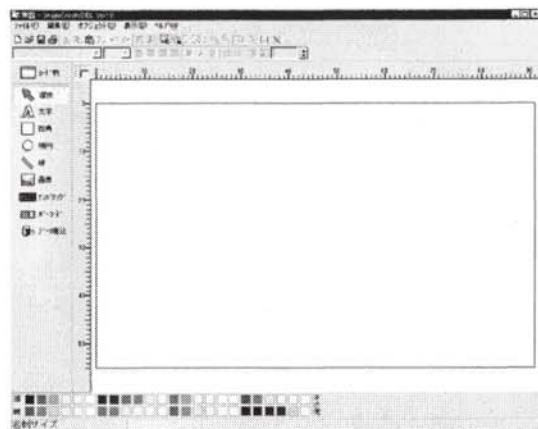
最後にデザインする面を[表面のみ][両面]から選択しましょう。ここでは「表面のみ」を選択します。



これで用紙設定が完了しました。内容を確認して[OK]ボタンをクリックします。

「ImageCreate DBL Ver1.1」のデザイン画面が開きました。

3. 文字を入力する



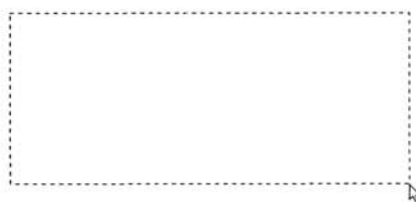
用紙設定で用紙の準備ができましたら、次に文字を入力していきましょう。

まずは、「名前」を入力します。

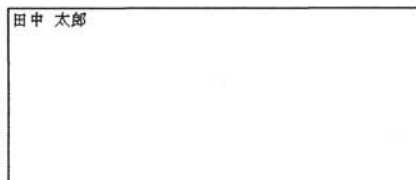
左のオブジェクトツールバーにある「A」ボタンをクリックしてください。



次に、名刺の用紙上で任意のエリアをマウสดラッグして指定します。



指定したエリアがボックス表示に変わりました。カーソルが点滅しています。この状態で入力作業を行ってください。



入力できましたか？入力できたら、キーボードの[ESC]ボタンを押すか、カード面の空白部分でクリックしてください。文字が確定されます。



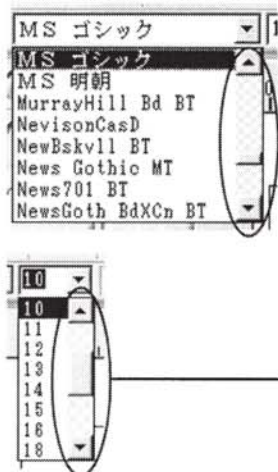
注意!!

用紙上に任意のエリアを指定するとき、指定したエリアが小さすぎると「オブジェクトの範囲が小さすぎます。」というエラーが表示されてしまいます。指定した文字のエリアは入力後でも調整できますので、ここでは大きめに範囲を指定してください。

田中 太郎

文字が入力されました。今度は文字のフォントや大きさを変更してみましょう。

文字列が選択されている状態（文字の周囲に黒い四角が）のまま、ツールバーのフォントボックスやサイズボックスを操作します。



スクロールバーを操作して登録されているフォントやサイズを選択します。

フォント及びサイズの変更はできましたか？

ここまでの作業を繰り返して、「住所」「電話番号」「会社名」など必要な文字列を入力しましょう。

文字列の長さより枠が大きくなってしまった場合には、下図のように枠のサイズを文字にあわせておきましょう。

田中 太郎

右下の「■」の上にマウスカーソルをあわせるとカーソルの形が上下矢印に変わります。マウスの左ボタンを押した状態でドラックすると、枠の大きさを変更することができます。



注意!!

文字化けについて

「TARO TANAKA」のように全角アルファベットで入力したローマ字や英語などの文字列や「田中 太郎」という和文文字列に対して欧文フォントを指定すると「文字化け」が発生します。これは、欧文フォントに全角文字や和文文字がないために起こる現象ですが、以下のように「全角スペース」を指定した場合にも同様にスペース部分が文字化けとなってしまいます。

TARO@TANAKA

和文文字と同様に全角スペースも欧文書体にはありません。欧文文字列にスペースを使用するときには必ず「半角スペース」を使用してください。

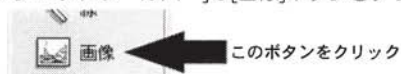
One Point

「名前」「住所」「会社名」「所属部署」など、名刺に必要な各項目を入力していくとき、ひとつのオブジェクト枠内にすべての項目をまとめて入力してしまうと、文字の大きさやフォントの種類、位置などが項目毎に変更できなくなってしまいます。項目毎に別のオブジェクト枠を作成し、入力を進めていくとよいでしょう。

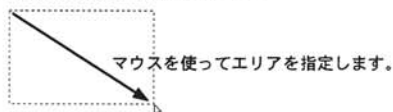
4. 画像を貼り付ける

次に画像データの貼り付けについて説明します。

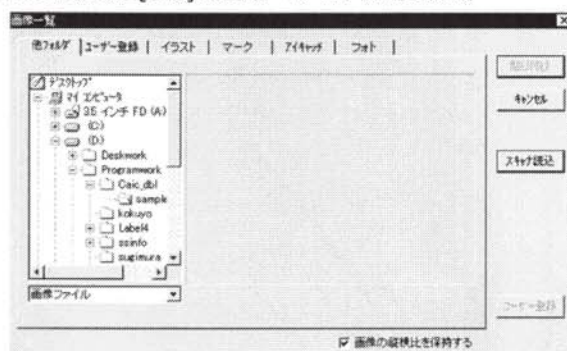
[オブジェクトツールバー]の[画像]ボタンをクリックしてください。



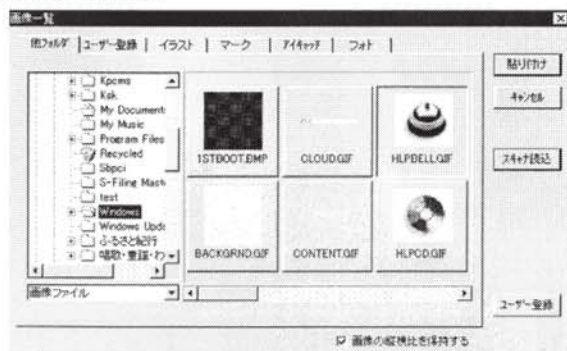
クリックしたら、用紙上で画像を貼る位置（範囲）をマウストラックで指定します。（点線の四角）



左ボタンを放すと[画像]の選択ダイアログが開きます。



画像選択ダイアログが開きました。現在[他フォルダ]タブが選択されています。当ソフトに搭載されている画像を一覧・選択するには[イラスト][マーク][アイキャッチ][フォト]タブをクリックして選択します。お客様が独自にお持ちの画像を貼り付けたい場合には、このまま[他フォルダ]タブより画像データの保存先のフォルダやドライブを指定してください。



フォルダを選択し、一覧の中から必要な画像をクリックしてください。選択しましたら<貼り付け>ボタンをクリックします。

先ほど指定した枠に画像データが貼り付けました。



注意!!

画像のインストールを行わなかった方は必ず CD-ROM をドライブに挿入した後に、以下の作業を行ってください。



注意!!

貼り付け可能な形式とサイズ

当ソフトで貼り付けることができる画像ファイル形式は BMP・JPG・TIF・GIF・WMF・EMF の 6 種類です。これらの画像ファイルであれば、[他フォルダ]で表示・選択が可能です。当ソフトは名刺作成が主体になっているため、あまり大きな画像ファイルの貼り付けはできません。また、フォルダ内の画像ファイルをすべて表示する構造から、大きな画像ファイルがフォルダ内に含まれていると、一覧表示に時間を要してしまいます。貼り付けられる画像ファイルのサイズは一概には定義できませんが、BMP 形式の画像で約 5MB 程度を目安としてください。（JPG・TIF などは圧縮形式ファイルのため、保存時には小さいサイズでも表示・貼り付け時には解凍されますのでご注意ください。）

5. 作成したオブジェクトの移動

文字オブジェクト及び画像オブジェクトの作成ができました。
作成したオブジェクトは各々用紙上の好きな場所へ移動することができます。ここでは移動の方法について説明していきましょう。

5-1 マウスによる移動

まずは、移動したいオブジェクトをクリックして選択状態にします。(周囲に黒い四角が表示された状態)

田中 太郎

選択したオブジェクトをマウスの左ボタンでクリックし、ボタンを押したまま移動したい場所へドラッグします。

田中 太郎



移動した先に上図のように点線の四角が表示されると思いますので目安にして移動しましょう。

5-2 キーボードによる移動

次にもっと微妙に移動したい場合にキーボードを使用して移動する方法を説明します。

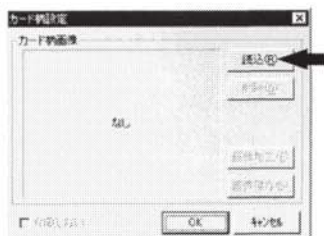
上記と同様に移動したいオブジェクトを選択状態にします。キーボードの矢印キー[←][→][↑][↓]を移動したい方向に押してください。矢印キーだけを押しと「1mm 単位の移動」となり、[Shift]キーを押しながら矢印キーを押すと「0.1mm 単位の移動」となります。

6. カード柄の設定

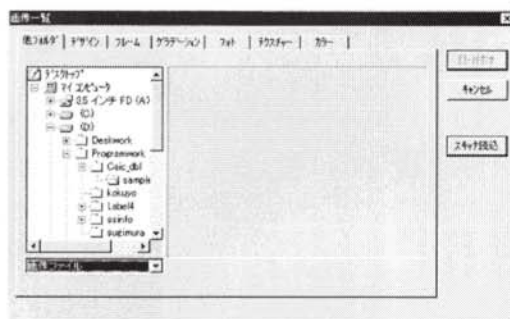
それでは最後にカード全面に「柄」をつけてみましょう。
[オブジェクトツールバー]の[カード柄]ボタンをクリックしてください。



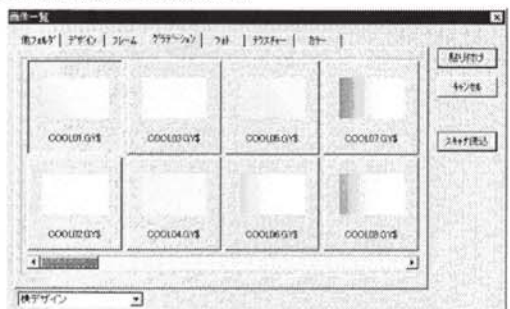
このボタンをクリック



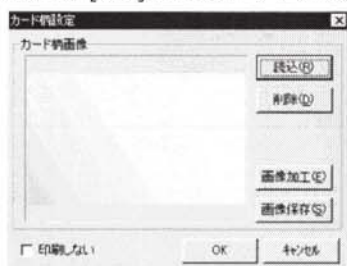
カード柄設定ダイアログが表示されます。現在、[カード柄画像]は[なし]になっています。[読み込み]ボタンをクリックしてください。



[画像一覧]ダイアログが表示されました。現在選択されているタブは[他フォルダ]で、外部データをカード柄として使用するにはこのタブから指定します。ここでは搭載されているカード柄を使用しますので、[デザイン][フレーム][グラデーション][フォト][テキストチャート][カラー]タブのなかから選択します。ここでは、[グラデーション]タブから選択してみましょう。



グラデーションデザインのカード柄が表示されました。下のスクロールバーを操作してお好きな柄を選択してください。選択できたら、[OK]ボタンをクリックします。



先ほどの画面に戻り、今度は選択した柄が表示されました。それでは、[OK]ボタンをクリックしてください。

選択したカード柄が画面上に貼り付けました。



注意!!

[他フォルダ]からの貼り付けについて
当ソフトで貼り付けることができる画像ファイル形式はBMP・JPG・TIF・GIF・WMF・EMFの6種類です。これらの画像ファイルであれば、[他フォルダ]で表示・選択が可能です。当ソフトは名刺作成が主体になっているため、あまり大きな画像ファイルの貼り付けはできません。また、フォルダ内の画像ファイルをすべて表示する構造から、大きな画像ファイルがフォルダ内に含まれていると、一覧表示に時間を要してしまいます。貼り付けられる画像ファイルのサイズは一概には定義できませんが、BMP形式の画像で約5MB程度を目安としてください。(JPG・TIFなどは圧縮形式ファイルのため、保存時には小さいサイズでも表示・貼り付け時には解凍されますのでご注意ください。)



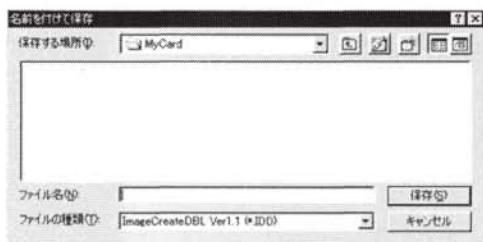
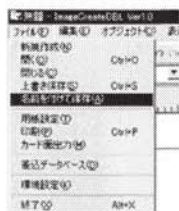
注意!!

カード柄の印刷について
貼り付けたカード柄はレイアウト画面上では全面に配置されていますが、実際に印刷すると、用紙の端から周囲2mm～2.5mmは印刷できずに白く残ってしまいます。これはプリンタマージンによるもので、ご使用になるプリンタがP-100M以外の場合には余白部分を無くして印刷することはできません。

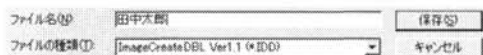
7. 作成したデータの保存

保存の方法を説明します。

メニューバーから<ファイル>をクリックし<名前を付けて保存>を選択してください。



現在[保存する場所]には[MyCard]が指定されています。これは、当プログラムのプログラムフォルダ内に作成されたデータの保存場所です。特に指定がない場合にはここに保存してください。それでは[ファイル名]の枠に名前を付けてみましょう。ここでは、「田中太郎」と入れてみます。



入力できましたら、[保存]ボタンをクリックします。保存することができました。



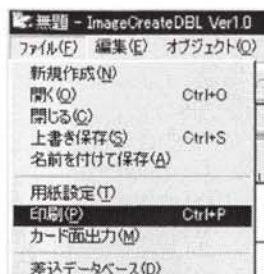
注意!!

ファイル名に日本語を使用する場合には「かな・漢字変換」を[オン]にしてください。「かな・漢字変換」の[オン/オフ]の切替えは[Alt]キー + [半角/全角]キーで行えます。(DOS/V 機の場合)

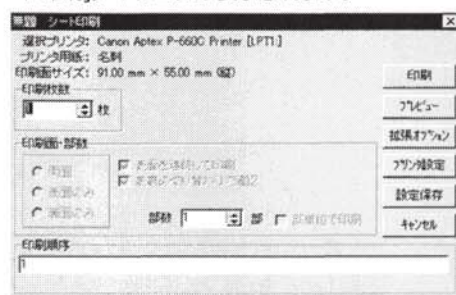
8. 印刷

それでは、最後に作成した名刺を印刷してみましょう。

[ツールバー]の[印刷]ボタンを押すか、[メニューバー]の<ファイル>の中から<印刷>を選択してください。



[シート印刷]ダイアログが表示されます。



ダイアログ上部には現在選択されているプリンタとプリンタ側で設定されている用紙サイズ、用紙の向きなどが表示されています。他のプリンタを選択する場合や、印刷モード・解像度の設定はこのダイアログからは行えませんので、[プリンタの設定]ボタンを押して、使用するプリンタの変更や各ドライバの設定を変更してください。表示されている状態でよろしければ、[プレビュー]ボタンを押して、印刷状態を確認しましょう。

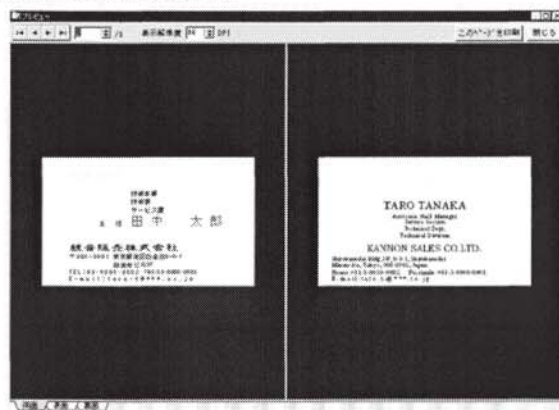


注意!!

プレビューからの印刷について

両面レイアウトを作成時、印刷ダイアログで両面印刷を選択してプレビュー表示させる場合、【両面】・【表面】・【裏面】タブの選択で表示を切り替えることが可能ですが、この画面から『このページを印刷』で確認印刷を行うと、【表面】→【裏面】の順に印刷されてしまいます。

【表面】・【裏面】のみの確認印刷を行う場合は、印刷ダイアログで『表面のみ』・『裏面のみ』を選択してから確認印刷を行ってください。また、『このページを印刷』で行う確認印刷は、1部だけの出力になります。複数枚を印刷したい場合は、印刷ダイアログからの通常の印刷で部数を指定して印刷を行ってください。「データ選択」ボタンで印刷するレコード・枚数を指定して印刷を行ってください。



画面がプレビュー表示画面が表示されました。画面中央マウスポインタを持っていくと、マウスの形状が[虫メガネ]に変わります。表示が細かくて見にくいときには、見たい場所にメガネを合わせマウスの左ボタンを押すと、その部分が拡大表示されます。逆に右ボタンを押すと縮小表示されます。

また、画面下部のタブを操作することで表裏両面・表面・裏面と表示を切り替えることもできます。

データを確認してこれで良ければ、[このページを印刷]ボタンをクリックすると、印刷が開始されます。ただし、プレビュー表示からの印刷は常に表示されている1ページ分(1部)だけですので、複数部数または後述する「データ差込」を使用したデータの印刷の場合には、一旦、[閉じる]ボタンを押してプレビュー表示を閉じ、先ほどの[シート印刷]ダイアログで各々の印刷設定が必要になります。

各オブジェクトの機能と使用方法

「ImageCreate DBL Ver1.1」では文字や線、図形。バーコードやナンバリング、データベースからの差込文字など、名刺やカードを構成する部品すべてをオブジェクトといいます。この章では「ImageCreate DBL Ver1.1」で作成できる各オブジェクトの機能と使用方法、効用などについて説明していきます。

まずは、すべてのオブジェクトを扱う上での共通した操作について、ご説明します。

1. オブジェクトについて

カード面のデザインは複数のオブジェクトによって構成されています。「ImageCreate DBL Ver1.1」では、最も基本的な操作となる移動、再編集、サイズの変更などを各オブジェクト単位で行うことができます。操作手順は次のようになります。

- ① 目的のオブジェクトを選択状態にする
- ② オブジェクトの変更 (移動・再編集・リサイズ) を行う
- ③ 選択状態の解除

1.1 オブジェクトの作成

「ImageCreate DBL Ver1.1」でのオブジェクトの作成方法は、すべて次の手順で行います。

- ① 目的のオブジェクトツールボタンを押す
- ② カード面上に適当なエリアをマウスドラッグで指定する
- ③ オブジェクト設定または選択ダイアログが表示されますので、設定及び選択を行う (線・図形オブジェクトは②の操作でカード面に描画されます)

1.2 オブジェクトの選択

カード面上に貼り付いた各オブジェクトの選択は、すべてマウス操作で行います。目的のオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトの周囲に黒い「■」が表示されます。この状態は「そのオブジェクトが選択されている状態」を意味します。

- ① ひとつのオブジェクトを選択状態にする
目的のオブジェクトをマウスで1回クリックします。周囲に黒い「■」が表示されます。
- ② 複数のオブジェクトを選択状態にする
ひとつ目のオブジェクトを選択状態にして、キーボードの [Shift] キーを押しながら次のオブジェクトをクリックします。また、一度選択したオブジェクトの選択状態を解除したい場合には、[Ctrl] キーを押しながらクリックしてください。この方法を繰り返して複数のオブジェクトを選択状態にします。この時、周囲に表示される「■」はグレー表示になります。また、複数のオブジェクトを選択した場合に行える操作は

「移動・削除」のみとなり、再編集やリサイズはできませんのでご注意ください。

③カード面に配置されたすべてのオブジェクトを選択する

キーボードの[Ctrl]キーを押しながら[A]キーを押すか、メニューバーの<編集>の中から<すべてを選択>をクリックすると、カード面上に配置されたすべてのオブジェクトが選択されます。選択後に行える操作は複数オブジェクトの選択時と同様です。

1-3 範囲による選択

また、もう一つの方法としてエリア選択という方法があります。これはマウスで範囲を指定して、その範囲内に配置されているオブジェクトを選択状態にする方法です。この方法には「交差選択」と「囲み選択」の2種が設定でき、その用途に応じて使い分けることができます。

①交差選択

マウスで指定した範囲に交差または完全に含まれるオブジェクトをすべて選択する。



上記アイコンをクリックすると、マウスで範囲を選択された範囲に完全に含まれるかあるいは、交差するオブジェクトだけが選択できます。

②囲み選択

指定範囲に完全に含まれるオブジェクトをすべて選択する。



上記アイコンをクリックすると、マウスで範囲を選択された範囲に完全に含まれるオブジェクトだけが選択できます。

1-4 オブジェクトの移動・変形

選択したオブジェクトを移動する方法には次の方法があります。

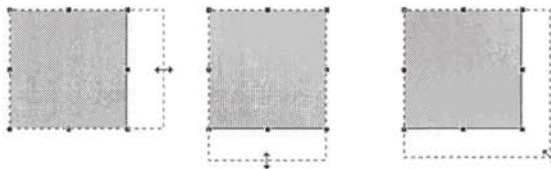
①マウスによる移動

選択状態になったオブジェクトをマウスの左ボタンを押しながらドラッグすることで、任意の場所へ移動する事ができます。

②キーボードによる移動

選択状態になっているオブジェクトをキーボードの矢印キー(←・→・↑・↓)を押すことで矢印の方向へ1mm単位で移動することができます。また、[Shift]キーを押しながら矢印キーを操作することで0.1mm単位の移動も可能です。

また、オブジェクトの変形は下図のように周囲に表示されている黒い「■」をマウスで移動することにより行います。

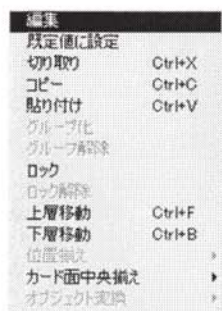


1-5 オブジェクトの削除

選択されたオブジェクトを削除するにはキーボードの [Delete(Del)] キーを押すか、メニューバーの<編集>の中から<クリア>をクリックすることで削除することができます。

1-6 オブジェクトの設定／再編集

すべてのオブジェクトは、そのオブジェクト上でダブルクリックするか、選択状態になったオブジェクトの上で、「マウスの右ボタン」を押し、下図のポップアップメニューから<編集>をクリックすることにより設定／再編集が行えるダイアログを表示することができます。



1-7 オブジェクトの重なり順

複数のオブジェクトをカード面に配置していくと、オブジェクト同士を重ねて配置しなくてはならない場合がよくあります。また、写真や色ベタの図形の上に、白抜き文字を配置する場合などでは意図的に重ねるケースなどもあります。「ImageCreate DBL Ver1.1」でのオブジェクトの重なり順は作成された順序が基本ですが、ここでは重なるオブジェクトの重なり順を変更する方法を説明します。

① 上層へ移動

選択されたオブジェクトを一番上に移動します。



ツールバーの[上層へ移動]ボタンをクリックするか、メニューバーの<編集>><上層へ移動>を選択します。

One Point

文字オブジェクトを作成後、文字の周囲に四角の枠図形を書いた場合など、オブジェクト同士が重なり合い、先に作成したオブジェクトが選択できなくなることがあります。このような場合、後に作成したオブジェクトを選択し、<下層へ移動>ボタンを押すことにより、重なりの一層下へ移動することができます。レイアウトを行うときには重なり順（作成順）にも気を付けて行うと作業がスムーズになります。

②下層へ移動

選択されたオブジェクトを一番下に移動します。



ツールバーの[下層へ移動]ボタンをクリックするか、メニューバーの<編集><下層へ移動>を選択します。

1-8 オブジェクトのグループ化とグループ化解除



表や図など複数のオブジェクトが集まってひとつの形になっているものの場合、それらのオブジェクトを「グループ」としてひとつにまとめる機能が「グループ化機能」です。使用方法是該当する複数オブジェクトを選択し、メニューバーの<オブジェクト>の中から<グループ化>をクリックするか、ツールバーの[グループ化]ボタンを押します。また、グループ化を解除するには、グループ化されたオブジェクトを選択し、同様にメニューバーの<オブジェクト><グループ化解除>を選択するか、ツールバーの[グループ化解除]ボタンをクリックしてください。

グループ化されたオブジェクトは移動・削除は可能ですが、再編集やリサイズはできませんのでご注意ください。

1-9 オブジェクトのロックとロック解除



細かい表やカード面のバックに複数のオブジェクトが配置され、そのオブジェクトに重ねて他のオブジェクトを作成しなければならない場合、下に配置されているオブジェクトをロック状態にしておくと、操作ミスで下のオブジェクトを移動してしまったり、間違えて選択してしまったりせず作業がしやすくなります。オブジェクトのロックはオブジェクトを選択状態にして、ツールバーの[ロック]ボタンを押します。ロックされたオブジェクトは選択すると赤い「■」で囲まれ、削除以外の操作はすべてできなくなります。ロックを解除するには、同様に解除したいオブジェクトを選択し、ツールバーの[ロック解除]ボタンを押します。ロックは各オブジェクト単位でできますので、こまめに使用すると便利です。

2. 文字オブジェクト

2-1 文字オブジェクトの基本操作



- ①オブジェクトツールバーの[文字]ボタンをクリックするか、メニューバーの<オブジェクト>-<文字>を選択します。
- ②カード面上で文字を置きたい場所にマウスの左ボタンを押しながら、ドラッグして範囲を指定します。指定できたら左ボタンを離すと、エディットボックスが表示されますので文字を入力してください。



- ③文字色を指定したいときは、ウィンドウ下部にあるカラーパレットをマウスの左ボタンでクリックすると文字色が設定でき、右ボタンのクリックで文字オブジェクトを囲む背景色の設定ができます。



- ④フォント、サイズ等変更したいときは、文字オブジェクトをマウスでダブルクリックし、表示された設定ダイアログで変更するか、ツールバーのフォントコンボボックスやサイズコンボボックス、スタイル変更ボタンを使用して変更します。



2-2 文字オブジェクトの機能

① 枠サイズ優先文字と文字サイズ優先文字

「ImageCreate DBL Ver1.1」の文字には「枠サイズ優先文字」と「文字サイズ優先文字」があります。「枠サイズ優先文字」は選択時に文字の周囲に表示される黒い「■」で囲まれたエリア（オブジェクトエリア）を「枠サイズ」として、その枠の大きさに文字を変形させるものです。「文字サイズ優先文字」では、通常のポイントによる文字サイズの設定と文字の高さ、幅を数値で設定する方法です。特に設定せずに文字を作成すると「文字サイズ優先文字」の設定で作成されます。



注意!!

枠サイズ優先時のイタリック書式

「枠サイズ優先」の文字列に「イタリック」の書式を設定すると文字の右側が欠けてしまいます。枠サイズ優先文字列にはイタリック書式を使用しないようにしてください。

キヤノン株式会社

「文字サイズ優先文字」(上)と
「枠サイズ優先文字」(下)。

キヤノン株式会社

「枠サイズ優先文字」では黒い
「■」に囲まれたオブジェクト
エリアに文字の大きさがフィット。

②縦組み文字

文字の入力は常に横書きで行いますが、横書きに入力した文字列を、次の手順で縦書きの文字に変換することができます。

①まず、通常通りに文字列を入力します。

キヤノン株式会社

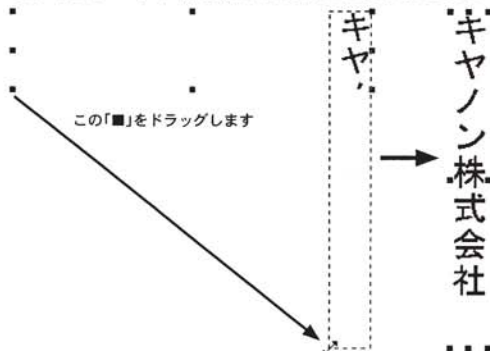
②選択された状態のまま、ツールバーの[縦書き]ボタンをクリックします。



このボタンをクリック

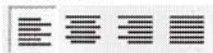
キヤ
ノ
ン
株
式
会
社

③上図のようにオブジェクト枠の右側に文字が縦に並びます。オブジェクト枠を横型から縦型に変更しましょう。



④横書きに戻したいときには[横書き]ボタンをクリックすれば、横書きに切り替わります。

③文字列の整列



複数の文字列をひとつのオブジェクトエリアに入力した場合、その並びを変更するのが「文字列の整列機能」です。整列機能には「左揃え」「中央揃え」「右揃え」「均等配置」の4つの整列方法があり、ツールバーにボタンが配置されています。

① 左揃え

〒123-4567 東京都新宿区三栄町〇-〇-〇 太郎ビル201
TEL:03-3355-0000 FAX:03-3355-1111

One Point

◎使用例◎

ポイントサイズで正確に指定したい場合には「文字サイズ優先文字」を使用します。通常の文字列の場合、「文字サイズ優先文字」を使用の方が大きさの変更や感覚がつかみやすく、使いやすいでしょう。「枠サイズ優先文字」は文字をデザイン的に変形(長体・平体)する場合や、文字数の異なる文字列を同一の文字エリアサイズ内に配置したいときに使用します。

②中央揃え

〒123-4567 東京都新宿区三栄町〇-〇-〇 太郎ビル201
TEL:03-3355-0000 FAX:03-3355-1111

③右揃え

〒123-4567 東京都新宿区三栄町〇-〇-〇 太郎ビル201
TEL:03-3355-0000 FAX:03-3355-1111

④均等配置

〒123-4567 東京都新宿区三栄町〇-〇-〇 太郎ビル201
TEL:03-3355-0000 FAX:03-3355-1111

2-3 設定ダイアログ内の機能

文字オブジェクトをダブルクリック、または右ボタンでポップアップメニューを表示し＜編集＞を選択すると、以下のダイアログが表示されます。

■[文字設定]タブ



◎文字の縦組み

縦組みの文字列も最初に入力するときには、通常の文字列入力と同様に横で入力されます。入力後、ラベル面にオブジェクトとして貼り付け、ダブルクリックして上記のダイアログを開き「縦書き」にチェックをして設定します。

◎文字幅・文字高さ

1 文字の幅と高さを設定します。「サイズ」ではポイント数で文字の大きさを決めるごく一般的な指定方法で、その文字の本来の縦横比になります。これに対して、文字幅、文字高さを個別に 0.01 ミリ単位で自由に設定するときに指定します。

◎文字間・行間

文字と文字の間隔、行と行の間隔をそれぞれ設定します。

◎回転

文字列の描画角度です。度数を指定すると文字は時計周りに回転します。

◎折り返し

1 行で長い文章をオブジェクトエリア内で自動的に折り返します。

◎長・平体禁止

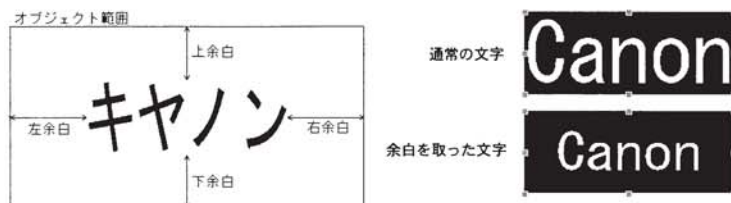
「枠サイズ優先文字」が設定されている場合だけに有効です。ここにチェックが付いていると、「長いオブジェクトエリア」に「文字数が少ない文字」が入ってきた時に、文字を変形せずに文字間をあけて挿入します。(データベースからの差込時に有効)

■[文字余白／丸み]タブ



◎文字余白（上、下、左、右）

それぞれの値を設定することにより、オブジェクト範囲とその中の文字列との関係を規定できます。余白機能は文字に背景色や枠線を設定したときに有効です。



◎丸み（文字を囲むオブジェクト枠に丸みを付ける）



<縦・横を同じにする>

チェックマークが描かれていれば、文字枠丸みの縦・横を調整した場合、もう片方が自動的に変わります。

<縦>

文字枠丸みの縦値です。

<横>

文字枠の丸みの横値です。

◎0に戻す

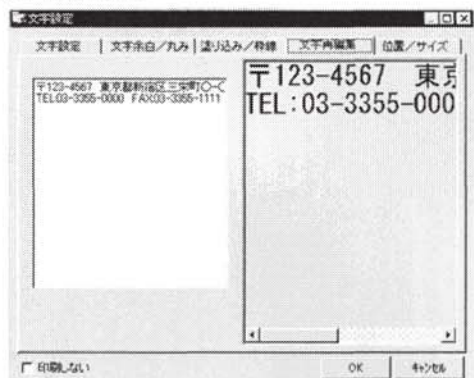
縦・横丸み値が0に戻ります。

■[塗り込み/枠線]タブ



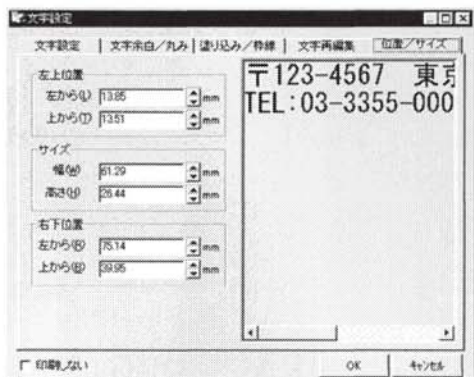
- ◎塗り込み (アイコン)
単色でオブジェクト枠内を塗り込みます。
- ◎グラデーション (アイコン)
オブジェクト枠に、指定する2色でグラデーションをほどこします。
- ◎塗り込みー色 (塗り込みモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込む色を指定します。
- ◎塗り込みーパターン (塗り込みモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込むパターン (網掛け) を指定します。
- ◎塗り込みーパターン (塗り込みモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込むパターン (網掛け) を指定します。
- ◎グラデーションー開始色 (グラデーションモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込むグラデーション色の最初の色を指定します。
- ◎グラデーションー終了色 (グラデーションモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込むグラデーション色の最後の色を指定します。
- ◎グラデーションーパターン (グラデーションモードの場合)
オブジェクト枠内を塗り込むグラデーションのパターンを指定します。
- ◎枠ー色
オブジェクト枠の色を指定します。透明を指定すると枠は表示されません。
- ◎枠ー線種
オブジェクト枠の線の種類を指定します。「なし」を指定すると枠は表示されません。
- ◎枠ー太さ
オブジェクト枠の線の太さを指定します。ただし、線種に実線以外が指定されている場合には、指定できません。(常に一番細い線で描画されます)

■[文字再編集]タブ



◎左側のテキストボックス内の文字を直接編集することができます。

■[位置/サイズ]タブ



◎左上位置—左から

デザインウィンドウの左端からオブジェクトの左端までの距離を指定します。

◎左上位置—上から

デザインウィンドウの上端からオブジェクトの上端までの距離を指定します。

◎サイズ—幅

オブジェクトの横幅を指定します。

◎サイズ—高さ

オブジェクトの高さを指定します。

◎右下位置—左から

デザインウィンドウの左端からオブジェクトの右端までの距離を指定します。

◎右下位置—上から

デザインウィンドウの上端からオブジェクトの下端までの距離を指定します。

One Point

和文フォントと欧文フォント

フォントには日本語専用の和文フォントと英数専用の欧文フォントがあります。たとえば、和文のかな・漢字に対して欧文フォントを指定した場合、欧文フォントにはかな・漢字が存在しないため「文字化け」を起こすことになります。かな・漢字が使用された文字列には必ず「和文フォント」を指定してください。

文字の縦書きについて

縦型の名刺を作成するときなどには、文字を「縦書き」にする事も頻繁にあります。しかし、もともとコンピュータは横書き文化の国で生まれたもので、現状に至っても「縦に文字を書く」ということに関しては不自由なことが多々あります。特に、数字の表記法ですが、入力時に半角数字を使用すると横並びのまま縦に回転してしまいます。アルファベットの場合も同様です。縦に文字を書く際には必ず全角文字を使用するようにしてください。

3. 図形オブジェクト (線・四角・楕円)

3-1 図形オブジェクトの基本操作



四角

- ① 上図アイコンをクリックするか<オブジェクト>-<四角>を選択します。
- ② エディタウインドウ上の始点としたいところでマウスの左ボタンを押し、そのままボタンを離さずにマウスを移動して、終点でボタンを離します。なお、[Shift]キーを押しながら指定すると、正方形を描くことができます。
- ③ 色を指定したいときは、エディタウインドウ下にあるカラーパレットの希望する色をマウスの左ボタンをクリックすると塗り込み色の設定、右クリックで枠線色の設定となります。
- ④ 線種、グラデーション等を指定したいときはマウスでダブルクリックし、表示された設定ダイアログにて変更してください。



楕円

- ① 上図アイコンをクリックするか<オブジェクト>-<楕円>を選択します。
- ② エディタウインドウ上の始点としたいところでマウスの左ボタンを押し、そのままボタンを離さずにマウスを移動して、終点でボタンを離します。なお、[Shift]キーを押しながら指定すると、正円を描くことができます。
- ③ 色を指定したいときは、エディタウインドウ下にあるカラーパレットでマウスの左ボタンをクリックすると塗り込み色の設定、右クリックで枠線色の設定となります。
- ④ 線種、グラデーション等を指定したいときはマウスでダブルクリックし、表示された設定ダイアログにて変更してください。



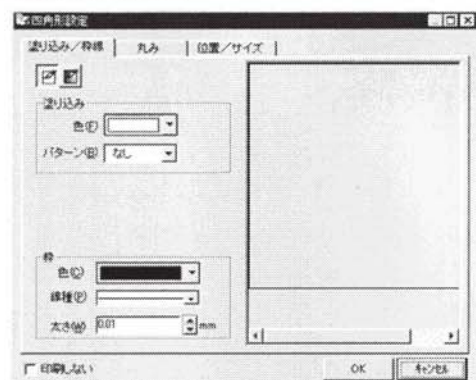
線

- ① 上図アイコンをクリックするか<オブジェクト>-<線>を選択します。
- ② エディタウインドウ上の直線の始点としたいところでマウスの左ボタンを押し、そのままボタンを離さずにマウスを移動して、終点でボタンを離します。なお、[Shift]キーを押しながら指定すると、45度単位で描くことができます。
- ③ 線の色を指定したいときは、エディタウインドウ下にあるカラーパレットからご希望の色をマウスの左ボタンでクリックします。
- ④ 線種、矢印等を指定したいときはマウスでダブルクリックし、表示された設定ダイアログにて変更してください。

3-2 図形オブジェクトの設定ダイアログ

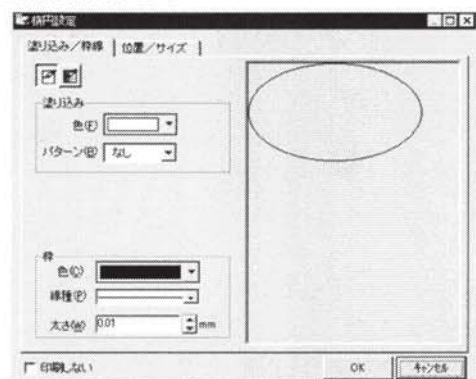
各図形オブジェクトをダブルクリック、または右ボタンでポップアップメニューを表示し＜編集＞を選択すると、以下のダイアログがそれぞれ表示されます。

■四角オブジェクト



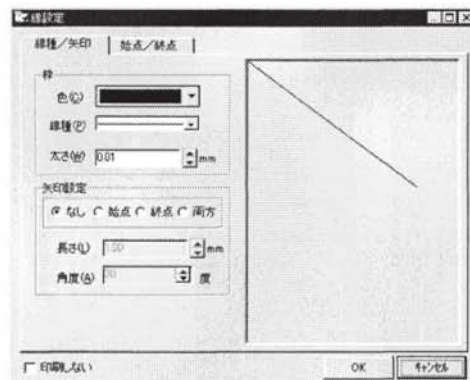
[塗り込み/枠線]タブ、[丸み]タブ、[位置/サイズ]タブは文字オブジェクトと同様です。

■楕円オブジェクト



[塗り込み/枠線]タブ、[位置/サイズ]タブは文字オブジェクトと同様です。

■線オブジェクト



- ◎**枠—色**
線の色を設定します。
- ◎**枠—線種**
線の種類を選択します。
- ◎**枠—太さ**
線の幅を設定します。(実線以外は設定出来ません)
- ◎**矢印設定**
なし、始点のみ、終点のみ、あるいは両方を選択してください。
- ◎**矢印設定—長さ**
矢印の長さをミリメートル単位で設定します。
- ◎**矢印設定—角度**
矢印の開き角度を設定します。

4. 画像オブジェクト

4-1 画像オブジェクトの基本操作



- ① 上図アイコンをクリックするか、メニューバーの<オブジェクト>-<画像>を選択し、カード面上に範囲を指定してください。画像一覧ダイアログが表示されます。
- ② 画像データには6つのカテゴリーがあり、ダイアログ上部のタブでページを切り替えられるようになっており、<ファイル>-<環境設定>(後述)で設定したパスの画像が一覧されます。一覧から選択して、<貼り付け>ボタンをクリックすると、デザインウィンドウ上に選択したイラストが貼り付けられます。「他フォルダ」のページを選択すると、サポートされている画像ファイルがフォルダ毎に、自動的にプレビューしながら一覧できます。
- ③ 画像は、一覧上では表示される大きさに合わせて自動的に拡大縮小されますが、カード面上に貼り付けたときは、最初に指定したエリアにおさまるように自動的にサイズ変更されます。しかし、貼り付けた後にサイズを変更することもできます。

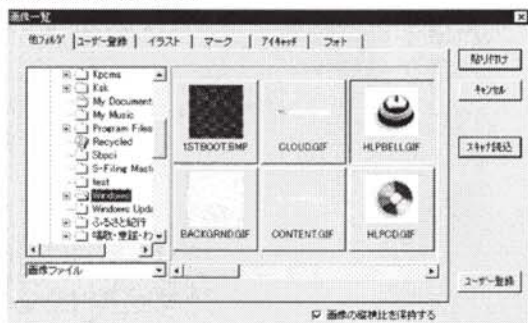
また、[Shift]キーを押しながらサイズ変更すると、縦横比を変えずに変更することができます。

縦横比をずっと保持したまま表示・編集したい場合は、画像一覧ダイアログの「画像の縦横比を保持する」にチェックマークを付けて[貼り付け]ボタンをクリックしてください。

4-2 画像オブジェクトの貼り付け

■他フォルダからの画像の貼り付け

当ソフトに搭載されている画像データ以外のものを貼り付けるには、[画像一覧]ダイアログの[他フォルダ]タブから貼り付けたい画像が収納されているフォルダを指定し、貼り付け作業を行います。ダイアログ左枠のフォルダ一覧からドライブやフォルダを指定すると指定されたフォルダ内に収録されている画像ファイルが右側のプレビューに一覧されます。当ソフトで扱うことのできる画像ファイルの形式は BMP / JPG / GIF / TIF / WMF / EMF です。その他の画像形式のものは表示されませんのでご注意ください。



■クリップボードを使用した貼り付け

当ソフトでの画像の貼り付けは上記の[画像一覧]ダイアログから選択する方法と、Windows 標準のクリップボードを使用して貼り付ける方法とがあります。クリップボード経由の貼り付けとは他ソフトで作成された画像データやその他のオブジェクトをメニューバーの<編集><コピー>を使用して行うものです。クリップボードに対応しているアプリケーション間で行う最も簡単な貼り付け方法です。

4-3 スキャナ/デジタルカメラからの入力

「ImageCreate DBL Ver1.1」は「TWAIN32 ドライバ」に対応しておりますので、この規格に対応したスキャナまたはデジタルカメラから直接画像を取り込むことが可能です。次の手順で作業を行ってください。

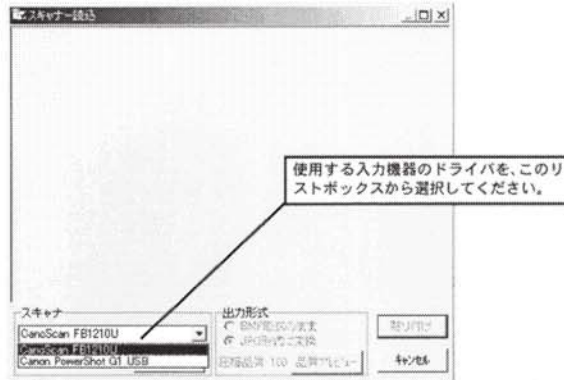
- ①[画像一覧]ダイアログの[スキャナ読込]ボタンをクリックしてください。
- ②下図のような[スキャナ読込]ダイアログが表示されます。



注意!!

画像オブジェクト使用時の注意

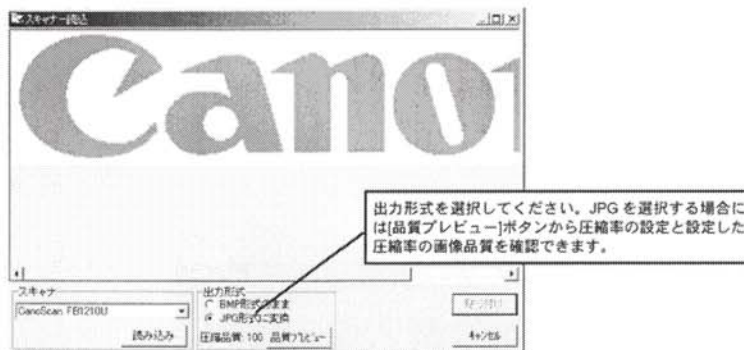
- ファイルサイズの制限
特にファイルサイズには制限はありませんが、著しく大きな画像ファイル (BMP 形式で 5MB 以上) の画像を扱う場合、[画像一覧]ダイアログに表示されなかったり、表示するのに時間がかかったりします。お客様がお使いの環境によって多少の差異はありますが、当ソフトを快適にご使用いただくためには大ききても 1~2 MB 前後のファイルサイズに変換してご使用になられることをおすすめします。また、[画像一覧]ダイアログの構造上、指定フォルダ内に大きな画像が含まれている場合にも同様となります。ご注意ください。
- JPEG ファイルの制限
当ソフトでは「JPG」形式の画像ファイルを扱うことができますが、「CMYK」で分色されている JPG ファイルは取り扱えません。



- ③[スキャナ]の項のリストボックスから、ご使用になる入力機器のドライバを選択してください。
- ④[読み込み]ボタンをクリックしてください。しばらくすると選択した入力機器のドライバが起動されます。各メーカーのドライバ使用法に従って、設定を行い読み込み作業を完了させてください。



- (当マニュアルでは[ScanGear CS-U/FB1210U]で作業しています)
- ⑤読み込み作業が終了すると、下図のように先ほどの[スキャナ読み込み]ダイアログに読み込んだ画像が表示されます。



注意!!

スキャナ/デジタルカメラからの入力時の注意

●「ImageCreate DBL Ver1.1」の入力機器読み込み機能は[TWAIN 規格]に準じたものです。ご使用になる機器側が TWAIN 規格に対応されていない場合、直接の読み込みはできませんのでご注意ください。

●読み込み機器にスキャナをご使用の場合、読み込み画像の解像度を高く設定して読み込み作業を行うと、ファイルサイズが極端に大きくなり、読み込み作業時や貼り付け作業時に著しく処理速度が低下することがあります。読み込みの際にファイルサイズを確認しながら解像度等の設定を行ってください。(BMP 形式で 5MB 程度。ただし環境によっても異なります)

読み込み機器にスキャナをご使用になる場合、原稿を原稿台に正確に(曲がらないように)セットしてください。「ImageCreate DBL Ver1.1」では読み込み後の画像編集による回転、修正、カットなどできません。

●最近のデジタルカメラは高画質化が進み、それに伴った画像のファイルサイズも大きくなっています。サイズの大きな画像を直接取り込むことはできませんので、一旦画像レタッチ系のソフトで取り込み、画像サイズを小さくして貼り付けることをお勧めします。

「ImageCreate DIB Ver1.1」は「カーソル插」や「画像三一分」を処理

④加工した両像を、 α 面に貼り付けた

-
- A screenshot of a terminal window. The prompt is `root@kali:~#`. The command `cat /dev/urandom | tr -dc 'a-z' | fold -w 64 | xargs -n 1 sh` has been entered and is currently being executed, indicated by a vertical bar at the end of the line.



④[画像加工]ダイアログが表示されました。

⑤まずは加工する範囲を指定します。[範囲・切抜]タブの[指定領域]または[画像全体]のいずれかを選択してください。画像全体は画像の全領域を加工範囲とします。指定領域を選択した場合には、左側のプレビュー画面の点線枠で加工する範囲を指定することで、その部分だけを切り抜くこと(トリミング)ができます。



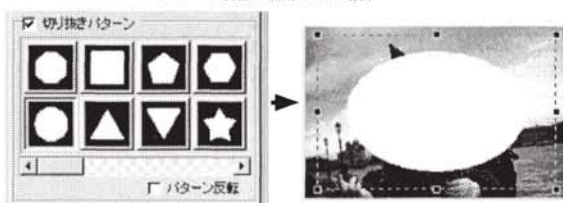
指定領域にチェックをした場合、左のような領域(点線枠)を自由に変更することで、切り抜く位置や範囲などを指定できます。

⑥加工する準備ができました。下記の各機能の説明をご覧ください。

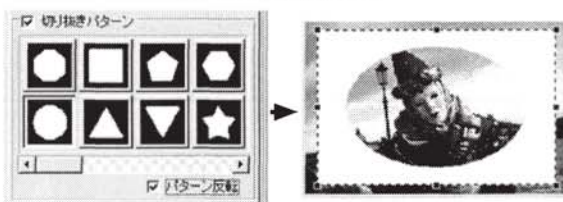
■画像切り抜き

画像の切り抜きは、選択した画像を円形や星形、三角や多角形で切り抜くツールです。下図の切り抜きパターン一覧からお好みのものを選択すると、エディット画面の画像が実際に切り抜かれ、切り抜かれた結果が下部にプレビューされます。また、[パターンの反転]機能もありますので、お試しください。

パターン反転を使用しない場合



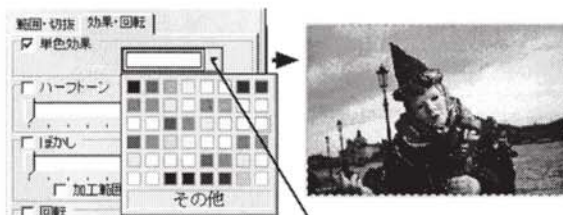
パターン反転を使用した場合



上図のように、[パターン反転]を使用しない場合には、選択エリア内の一部を、選択した切り抜きパターンで消去します。[パターン反転]を使用した場合には切り抜きパターン以外を消去します。

■単色効果

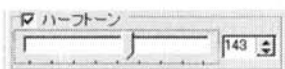
[効果・回転]タブをクリックします。一番上段の[単色効果]機能は、画像をグレースケールにしたり、セピア調にしたりなどとカラー画像を単色の表現に変換します。もちろん、色調は自由に選択できますので、一枚の画像を様々な色で楽しむことができます。



このボタンをクリックするとパレットが表示されます。

■ハーフトーン

[ハーフトーン]機能は、画像の色合いを淡くしたいときに使用します。たとえば、文字の背景に画像を使用する場合や、カード柄に使用する場合など、文字の「読みやすさ」を確保するために、画像全体のトーン（色合い）を淡くしたい時に便利です。

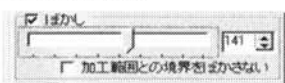


レバーを左右にスライドするか、右側の数値で指定してください。(0～255) 数値が高いほど「白」に近づきます。

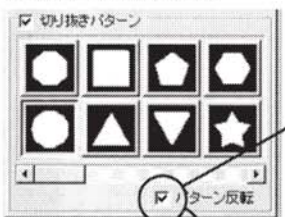


■ぼかし

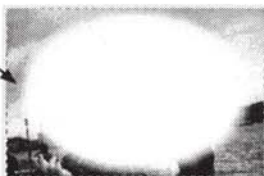
[ぼかし]機能は画像のエッジや、切り抜き境界線をぼかします。四角の画像のエッジをぼかして柔らかな雰囲気を出したり、切り抜いた境界線をぼかしてオリジナルのフレームを作ったり。いろいろと楽しめます。



切り抜きツールと併用した場合



パターン反転をチェックする



パターン反転をチェックしない



注意!!

画像加工ツールを使用する上での注意事項

- 一度編集してしまった画像を再編集することはできません。もう一度最初から（画像の貼り付けから）やり直してください。
- スキャナやデジタルカメラで撮影した画像も加工することはできませんが、極端にファイルサイズの大きい画像（5 MB以上）を扱うと、著しく処理が遅くなったりお客様の環境によっては正常に動作しなくなることもあります。特にスキャナからの取込画像の加工には十分にご注意ください。

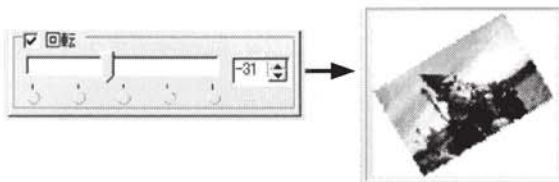
One Point

ぼかし機能と切り抜きパターン

左図のように切り抜き機能と併用して使用することにより、顔写真（上）や用紙のフレーム柄（下）など、効果的な画像が作成できます。また、左図は、ぼかし設定内の[加工範囲との境界線をぼかさない]にチェックをつけています。これにより、切り抜きパターンの境界線だけをぼかすことができます。

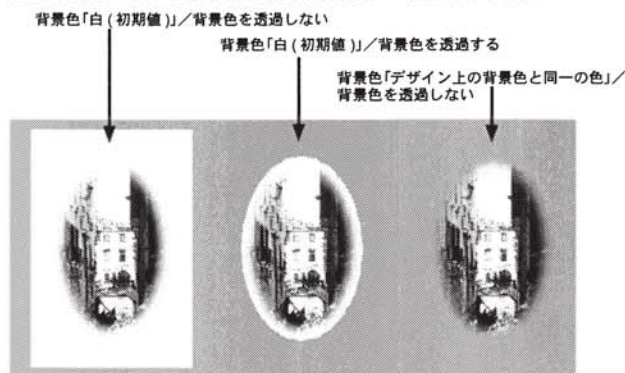
■回転

画像を回転させます。回転幅は (-180 度 ~ 180 度) です。エディット画面上では回転しませんが、プレビュー部分を見ると回転されていることが確認できます。



■背景色

加工した画像の背景部分に色を指定します。たとえば、ほかし加工をかけた画像を、カード面上に貼り付けるときに、用紙自体に色が着いていたり、色が指定されている図形オブジェクト (四角や円) と重ねたりする場合に、貼り付け側の色と同一色を背景色として指定しておくことで重ね合わせがスムーズになります。



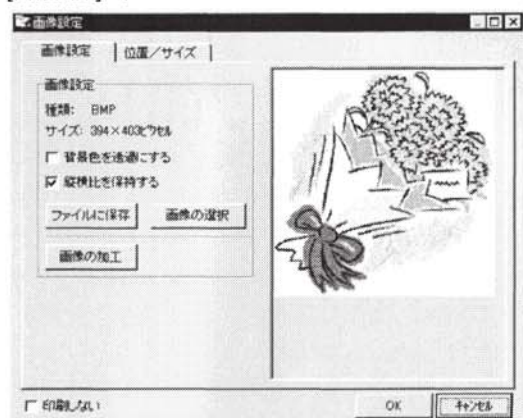
■出力形式

ダイアログ下部にある[出力形式]とは、加工後の画像を BMP または JPG 形式のいずれかを選択して貼り付けられます。「ImageCreateDBL Ver1.1」で扱える画像形式は BMP・TIF・JPG・GIF・WMF・EMF と多数ありますが、いずれの画像も加工処理をすると BMP または JPG 形式のいずれかに変換されてしまいます。その他の形式での書き出しはできませんのでご了承ください。

4-5 画像オブジェクトの設定ダイアログ

画像オブジェクトをダブルクリック、またはマウスの右ボタンでポップアップメニューを表示し＜編集＞を選択すると以下のダイアログが表示されます。

■[画像設定]タブ



◎ファイルに保存ボタン

右側のプレビューボックスに表示されている画像をディスクへ保存します。このボタンをクリックすると Windows 標準の保存ダイアログが表示されます。

◎画像の選択ボタン

現在選択されている画像を別の画像に選択し直すことができます。クリックすると[画像一覧]ダイアログが表示されます。

◎背景色を透過にする

ここにチェックが付いていると、背景色 (画像の左上隅の 1 ドットの色) を透過します。

◎縦横比を保持する

ここにチェックが付いているときには、画像は常に縦横比を変えずにリサイズすることができます。

■[位置/サイズ]タブ

文字オブジェクトの[位置/サイズ]タブと同様です。

5. ナンバリングオブジェクト

会員カードや整理番号カードなど、ナンバーで管理をするカードを作成する場合に使用します。ナンバリング機能は指定された桁数と書式で、シートの左上のカードから順にナンバーを付ける機能です。

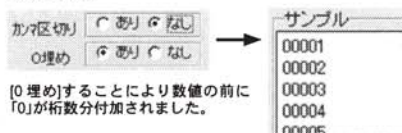
5-1 ナンバリングオブジェクトの基本操作

0123 ナンバリング

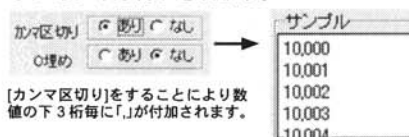
- ①オブジェクトツールバーの[ナンバリング]ボタンをクリックするか、メニューバーの<オブジェクト>から<ナンバリング>を選択し、カード面上で範囲を指定します。
- ②下図のダイアログが表示されますので、各設定を行ってください。

- ③まず、簡易設定エリアのナンバリング書式の桁数を入力します。入力できたら[書式文字列へ設定]ボタンを押してさい。

- ④桁数を入力 (ここでは「5」) したのに、「1 桁」しか表示されません。これは、ここで設定する桁数とは最大桁数という意味ですので、ナンバリングすることで数値が増加し「99999 番 (5 桁の最大値)」までナンバリングできることを示しているからです。
- ⑤次に「0 埋め」と「カンマ区切り」のチェックボックスを見てください。現在両方とも「なし」がチェックされていますが、「あり」にチェックをして、同様に「書式文字列へ設定」ボタンを押してください。



- ⑥「0 埋め」を「あり」にチェックすると上図のように、指定桁数に満たない数値の前に「0」が付加されました。「カンマ区切り」を「あり」にチェックをすると現在表示されている数値 (実数値) が「1 桁」のため表示されません。たとえばこのナンバーが「1000 番以上」に増加すると以下のようになんが付けられます。



- ⑦また、ナンバリング機能には通常のナンバーの他に「日付ナンバリング機能」を使用することもできます。同様に簡易設定の「日付・時刻スタンプ」タブをクリックしてください。



- ⑧書式を選択して「書式文字列へ設定」ボタンをクリックすると、現在の日時がスタンプされます。このタイムスタンプはパソコンのシステムクロックに連動し、印刷時の日付や時間をスタンプすることができます。
- ⑨諸々の設定がすみましたら、「OK」ボタンをクリックしてください。カード面上にナンバリングオブジェクトが貼り付きしました。
- ⑩書体や文字サイズなどを設定してください。設定方法は通常の文字列と同様です。

5-2 ナンバリングオブジェクトの機能と設定ダイアログ

■前文字と後文字の設定

ダイアログの[簡易設定]では[前文字]と[後文字]を設定することができます。これは、ナンバリングするナンバーに関係なく固定で付加する文字列の設定です。たとえば、[前文字]に「Rot No.」、[後文字]に「/2001」と入れ、「5桁」「0埋めあり」で設定すると以下のようになります。

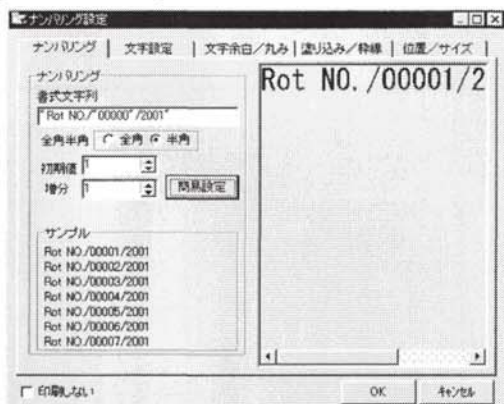
■初期値と増分の設定

印刷途中でプリンタトラブルによりナンバーが途中で切れてしまった時などに、途中ナンバーからの設定ができる[初期値]の設定を使用します。初期値のボックスに開始したいナンバーを入力すれば下部のサンプルの開始ナンバーが変更されます。また、ナンバーを「10・20・30・40・・・」と付けたい場合には[増分]のボックスに「10」と入力すると「10」ずつナンバーが増加します。

■設定ダイアログ内の機能

ナンバリングオブジェクトをダブルクリックするか、またはマウスの右ボタンでポップアップメニューを表示し「編集」を選択すると以下のダイアログが表示されます。

■[ナンバリング設定]タブ



◎書式文字列

現在指定されている書式文字列を表示しています。

◎全角半角

指定した書式文字を全角または半角に切り替えることができます。

◎初期値

前述した初期値を変更することができます。

◎増分

前述した増分を変更することができます。

◎簡易設定ボタン

ナンバリングダイアログを開き、再設定することができます。

6. バーコードオブジェクト

ナンバリングと同様に会員のデータ管理や整理番号の代わりにバーコードを使用することがあります。

以下の手順でバーコードオブジェクトを作成してみましょう。

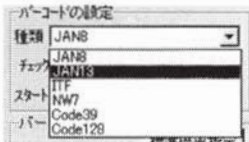
6-1 バーコードオブジェクトの基本操作



- ①オブジェクトツールバーの[バーコード]ボタンをクリックするか、メニューバーの<オブジェクト>から<バーコード>を選択し、カード面上で範囲を指定します。
- ②以下のダイアログが表示しますので、各設定を行ってください。



- ③まずは[バーコード]タブからバーコードの種類を選択します。
詳細設定については後述します。



ここでは、最も一般的な JAN13 を選択してみます。

- ④次に[ナンバリング]タブをクリックしてバーコード数値を 13 桁分入力します。



- ⑤右側のプレビューに生成されたバーコードが表示されます。
正しく入力されていないと「赤いバツ」が表示されます。
⑥作成できたら[OK]ボタンをクリックしてください。カード面上にバーコードが貼り付けました。



注意!!

JANコードを使用される方へ

JANコードは一般的に国内の流通コードとして使用されているコードです。市場に流通される商品に添付する場合には公的な機関へ申請し、認可を受けメーカーコード等を取得しなければなりません。当ソフトでは簡単にJANコードの生成が行えますが、上記の点にご注意いただきご使用になってください。

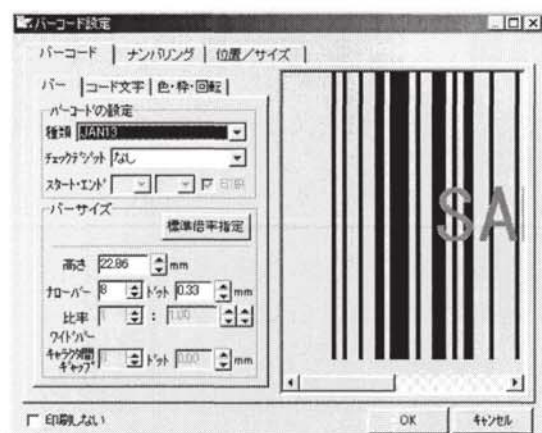
バーコードのサイズについて

バーコードのサイズ（幅）は指定されているナローバーのドット値または mm 値と指定桁数、指定プリンタ（通常使うプリンタ）の解像度によって自動的に換算されます。表示時には誤差が生じないようプログラム内部で調整しておりますが、印刷時には指定ドット数で印刷されるため表示状態と多少の誤差が生じることがあります。バーコードを囲むオブジェクト枠をバーコードぎりぎりに設定してしまうとコードの右端が切れてしまうこともありますのでバーコード枠はある程度の余裕を持って作成するようにしてください。また、印刷時にプリンタの変更するとプリンタ解像度の変更され、指定ドット数とは異なるドット数で印刷される場合もあります。再度バーコードのプロパティを開き確認後印刷を行ってください。

6-2 バーコードオブジェクトの機能と設定ダイアログ

バーコードオブジェクトをダブルクリック、またはマウスの右ボタンでポップアップメニューを表示し＜編集＞を選択すると以下のダイアログが表示されます。

■[バーコード]タブ



●[バー]タブ

◎種類

生成するバーコードの種類を JAN8 / JAN13 / ITF / NW7 / Code39 / Code128 の中から選択します。

◎チェックデジット

生成する各バーコードのチェックデジット値の計算方法を選択します。選択するバーコードによって選択できるチェックデジット値が異なります。

◎スタート・エンドキャラクタ

NW7、Code128 のいずれかのバーコードを選択したときにキャラクタ値と、キャラクタ値の印刷の有無を設定できます。

◎バーサイズ（標準倍率指定）

バーサイズを標準倍率から設定します。＜標準倍率指定＞ボタンをクリックすると、倍率を指定するボックスが表示されますので数値で倍率を設定してください。

◎バーサイズ（高さ）

バーの高さを指定します。

◎バーサイズ（ナローバー）

ナローバー（バーの中で最も細い線）の幅を指定します。ドットで指定した場合には現在選択されているプリンタ（通常使うプリンタ）の解像度により指定ドット数を mm 単位に置き換えます。また、mm で指定された場合には指定された mm 値をプリンタのドットサイズより換算しドット数に置き換えます。

◎比率

ワイドバー（太バー）を使用する種類（ITF / NW7 / Code39）のバーコードではナローバーとワイドバーの比率を「ナロー：ワイド」の形式で指定できます。比率（ナロー）は整数、比率（ワイド）は小数点以下 2 桁の数値で指定できます。

◎ワイドバー

ナローバーとの比率から算出される値が表示されます。(ITF / NW7 / Code39)

◎キャラクタ間ギャップ

バーとバーとの間の空白部分の幅を指定します。(NW7 / Code39)

●[コード文字]タブ



◎コード文字を印刷する

チェックをするとバーコードにコードナンバーが付加されます。
チェックをしないと以下項目の設定はできません。

◎フォント

バーコードに付加するコードナンバーのフォントの種類を選択します。

◎サイズ

コードナンバーの文字の大きさをポイントで指定します。また、「文字幅」「文字高さ」に数値で指定することによりポイントサイズでは表現できないサイズの指定も可能です。

◎位置

コードナンバーをバーコードに対してどの位置に表示するかを設定します。

◎文字配置

コードナンバーをバーコードの幅に対して右・中央・左・均等に配置できます。

◎バーとの距離

コードナンバーとバーコードの下端あるいは上端との距離を指定できます。

●[色 / 枠 / 回転]タブ



◎色（前景色）

バーコード自体の色を指定します。

◎色（背景色）

バーコードを囲む枠内の色を指定します。

◎枠（色）

バーコードを囲む線の色を指定します。

◎枠（線種）

バーコードを囲む線の種類を指定します。

◎枠（太さ）

バーコードを囲む線の太さを指定します。

◎回転

作成したバーコードを 90 度単位で回転することができます。

■[ナンバリング]タブ



◎書式文字列

ここにバーコードナンバーを入力します。

One Point

固定値のバーコードデータを設定するには...

書式文字列に直接文字を入力し、「」で囲うことにより、ナンバリングでない固定の値をバーコードデータとして設定できます。
(例) "4942563003302"

◎全角・半角

指定した書式文字を全角または半角に切り替えることができます。

◎初期値・増分・簡易設定

この設定することでナンバリングバーコードの生成が可能です。ただしバーコードの種類及びチェックデジットに計算値が指定されている場合には使用できません。

使用方法はナンバリングオブジェクトと同様です。前項をご参照ください。

■[位置/サイズ]タブ

他のオブジェクトと同様です。

6-3 搭載されているバーコードの仕様

■[JAN 8/JAN 13]

<概要>

1978年にJIS化された共通商品コードで日本で使用されている。店頭小売商品(食品・たばこなど)にも印刷されているので見かけることが非常に多い。現在では90%以上の小売商品に印刷されている。EANコードをもとにつくられた規格である。

<特長>

JANコードは0~9の数字のみで構成される。

コードの桁数は8桁と13桁の2種類である。

JANコードの番号(データ数値)は流通コードセンターで管理している。

<使用例>

店頭販売される小売商品に使用されている。(衣類・雑貨・食品など)スーパーなどでは生鮮食料品にインストアマーキングとして使用されている。

<使用方法>

0~9までの数字だけを使用し、コード数値が8桁か13桁しか使用しない場合に使う。必ずチェックデジットが入っているので、読み取りデータの信頼性を要求する場合に使用する。社内で使用する場合(インストアマーキング)では自由にバーコードを印刷できる。しかし、一般に流通される商品に印刷する場合には、流通コードセンターに商品登録を行い、規定番号を発行してもらわなければならない。初めの2桁(49または45)を国番号として使用しているので、インストアマーキングの場合には、このふたつの数値から始まる番号は避けたほうが良い。

■[Code 39]

<概要>

2値(太・細)のバーとスペースで表現されるバーコードで、9本(5本のバーと4本のスペース)で構成される。スタートコード、ストップコードには*が用いられ、データを*で挟んだコードである。使用できるデータは英数字、特殊記号である。FA、OAなどで主に使用されている。1994年にJISに制定された。

<特長>

0~9の数字、英文字と特殊記号(ー、\$、%、/、.、+、スペース)を表現する。コードの桁数は自由に設定できる。

チェックデジットは必ずつける規格ではない。(チェックデジットが無くても信頼性の高いバーコードある)

<使用例>

FA(生産ライン、在庫管理)、OA(伝票管理)などで使用されている。米国ではAIA(米国自動車事業会)、EIA(米国電子部品事業会)、HIBCC(米国保険医療産業)などで使用されている。

<使用方法>

0～9の数字、英文字を使用する場合に使う。

■[Code 128]

<概要>

Code 39のバーコード長を短くしてデータの信頼性を高めるために開発されたバーコードで、4値のバーとスペースで構成される。使用できるデータは英数字、特殊記号である。FA、OA、商品流通コードなどで主に使用されている。1995年にJISに制定された。MSIコードに変わって使用されるようになった。

<特長>

0～9の数字と英文字、特殊記号を表現する。
コードの桁数は自由に設定できる。チェックデジットは必ずつける規格である。(チェックデジットをつけない使用法も出てきている)
チェックデジットは2桁つける。(最も信頼性の高いバーコードである)

<使用例>

FA (生産管理・在庫管理)、OA (伝票管理)、商品流通コードとして使用されている。

<使用方法>

0～9の数字と英文字、特殊記号を使用する場合に使う。

■[NW7]

<概要>

NW7は1994年に日本でJIS-X-0503として規格された。NW7は4本のバーと3本のスペースの合計7本で1キャラクタを構成している。太と細の7本のエレメントで構成されているためNW7と呼ばれる。NW7は比較的単純な構成と高い印刷制度が要求されない点から非常に古くから使用されている。

<特長>

0～9の数字。
6個の特殊記号。(-, \$, /, ., +)
4個のスタート・エンドキャラクタコード (A～D)

<使用例>

医療機関 (病院/血液銀行)、図書館 (貸し出し管理)、宅配便 (佐川急便、ヤマト運輸などの送り状)、各種会員カード等で使用されている。

<使用方法>

0～9の数字と6個の特殊記号だけを使用して構成する。

■[ITF]

<概要>

太、細のバーとスペース (2値) で表現されるバーコードで、奇数桁バー、偶数バーをスペースで表すバーコード。奇数桁をバー、偶数桁をスペースで表現するので基本的には偶数桁のバーコードしか存在しない。バーコードは5本 (3本の細と2本の太) で構成される。ダンボール印刷、図書館、ビデオ、カラオケ予約などで使用されている。1987年にJISに制定された。

<特長>

0～9の数字。
バーコード桁数は自由に設定できる。
チェックデジットは必ずつける必要はないが、チェックデジットをつけて使用される場合が多い。

<使用例>

ダンボール印刷、図書館（貸し出し管理）、ビデオ予約、カラオケ予約などで使用される

<使用方法>

0～9の数字だけで構成する場合に使用する

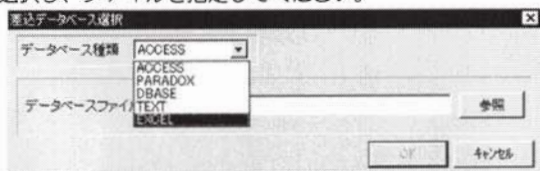
7. 差込オブジェクト

「ImageCreate DBL Ver1.1」にはデータベースの差込機能が搭載されています。この機能は MS-Access や Excel、txt/csv データなどを変換することなく、そのままカード面に項目として貼り付けられる機能です。社内の人事データから名刺を作成する場合や顧客データからの名刺作成にとっても便利です。

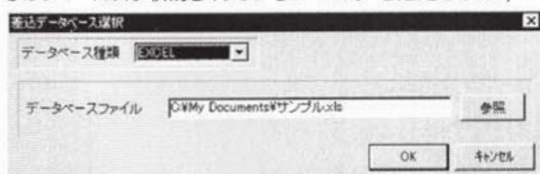
7-1 差込オブジェクトの基本操作

データ差込

- ①オブジェクトツールバーの[データ差込]ボタンをクリックするか、メニューバーの<オブジェクト><差込>を選択します。
- ②下図のダイアログが表示されますので、データベースの種類を選択し、ファイルを指定してください。



- ③ダイアログ中の[データベースの種類]から、これから差込もうとしているファイルの種類を選択してください。次に[参照]ボタンをクリックし、表示されたダイアログから差し込むファイルを選択してください。(Access / Excel 以外のファイルではそのファイルが収納されているフォルダを指定します)



- ④指定できたら[OK]ボタンをクリックしてください。次のダイアログが表示されます。



注意!!

差込機能を使用するには…

差込機能を使用するためには、D A O (Data Access Objects) が 必要です。これは、マイクロソフト社が自社製品「Office」の中での相互リンクをとるために規格化したものです。この規格を使用することにより Access / Excel の独自ファイルを直接読み込むことができるようになります。ただし、以下のような制限があります。ご注意ください。

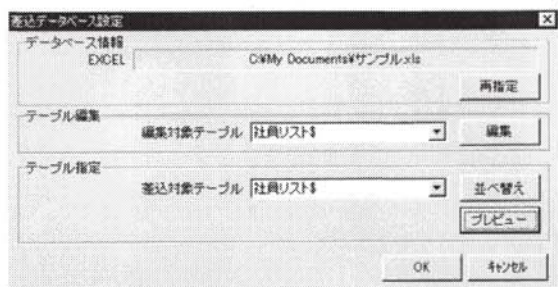
・ Access / Excel のどちらもインストールされていないパソコンではこの機能は使用できません。

・ Access / Excel がインストールされていても、上記以外の理由で正常動作しない場合があります。

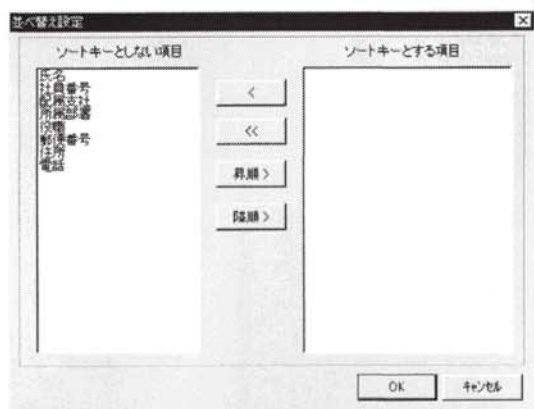
詳しくは「インストール」の章に記述されていますので、良くお読みになり適切な処置を行ってください。また、それでも不明点が解決されない場合には弊社サポートセンターへご連絡ください。

差込件数について

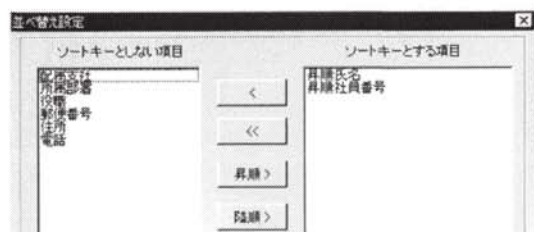
ハードウェアスペックにもよりますので、一概に何件までは大丈夫です。とはいえませんが、弊社にてテストした結果 3000 件くらいまでは十分に扱うことができました。ただし、メモリやリソースを大量に使用するため件数に応じて処理速度が著しく低下し、それにより正常に動作しない場合も考えられます。大型のデータベースファイルを差し込む場合には、適当な件数にファイルを分割し作業されることをおすすめします。



- ⑤ファイル内のデータを編集したい場合には[編集対象テーブル]から該当するシート (Excel) またはテーブル (Access)、ファイル (その他の形式) を選択してください。選択しましたら[編集]ボタンをクリックします。元のアプリケーションが起動され編集作業が可能になります。
- ⑥そのまま差込作業をしたい場合には、[差込対象テーブル]から該当するものを選択してください。該当データ選択後、差し込む際にデータを並べ替えたい場合には[並べ替え]ボタンをクリックしてください。次のダイアログが表示されます。



- ⑦並べ替えをしたい項目を左枠から選択し、ダイアログ中央の[昇順][降順]ボタンのいずれかをクリックしてください。選択した項目が右枠に移り項目の頭に「昇順」または「降順」という文字が入ります。設定できましたら「OK」ボタンをクリックします。



-
- Figure 1-10 shows the 'Text Box' dialog box. The 'Text' tab is active, showing a text area with the text 'テキストボックス' and a 'Text' button. The 'Format' section includes a 'Font' dropdown, a 'Size' dropdown, a 'Color' button, a 'Background Color' button, a 'Text Decoration' button, and a 'Text Orientation' button. The 'Help' section has a 'Help' button. The 'OK' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

-

- _____

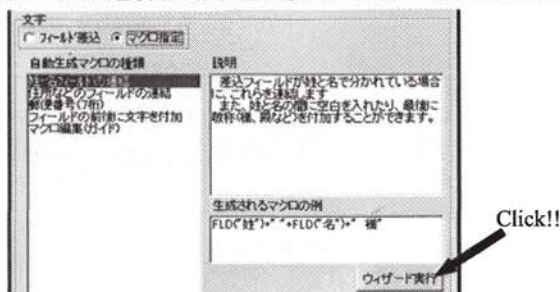
7-2 差込データの加工機能

前項の基本操作では指定したデータをそのままの形で差し込む(フィールド差込)手順を説明しました。ここでは、指定したデータを加工して貼り付ける「マクロ指定」について説明します。

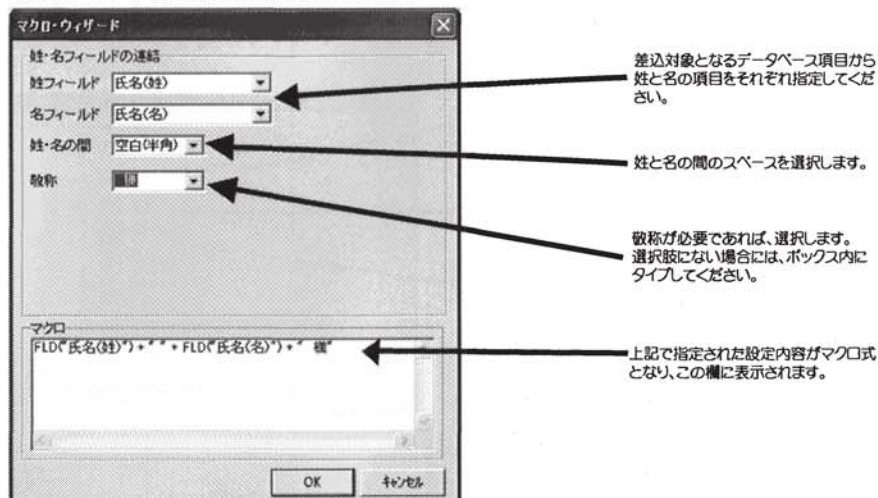
■差込データ種類:文字の場合



●差込データの氏名項目が、姓と名に分かれており、その項目をひとつに連結したい場合



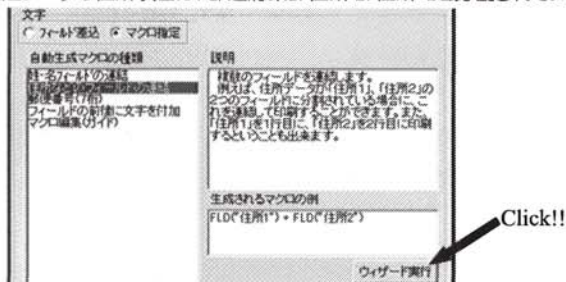
- ①「差込項目選択」ダイアログ内の「マクロ指定」にチェックを付けます。
「自動生成マクロの種類」の中から1番上の「姓・名フィールドの連結」を選択します。右側の枠にその説明とマクロ式の例が表示されます。
そのまま「ウィザード実行」ボタンをクリックしてください。



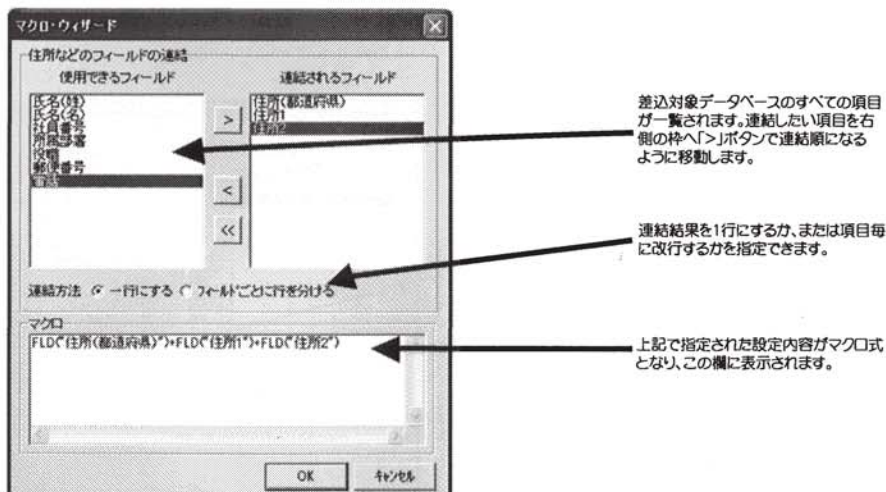
- ②「マクロウィザード」ダイアログが開き、項目の設定を聞いてきますので、項目を設定し、「OK」ボタンをクリックします。
ラベル面に姓と名が連結され、敬称「様」がついた状態で貼り付けました。

田中 一郎 様

- 差分データの住所項目が「都道府県」「住所1」「住所2」と分割されている場合、各項目を連結して貼り付ける。



- ① 「自動生成マクロの種類」の中から「住所などのフィールドの連結」を選択してください。
「ウィザード実行」ボタンをクリックします。



- ② 上記のように連結したい項目(ここでは「都道府県」「住所1」「住所2」)を連結する順番に右側の枠へ移動します。連結方法を指定し「OK」ボタンをクリックすると、ラベル面に連結した文字が貼り付けられます。

連結方法 ☒ 一行にする ☐ フィールドごとに行を分ける

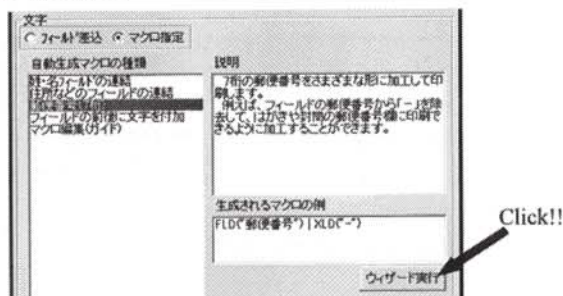
東京都港区白金台0-0-0〇〇〇マンション505

連結方法 ☐ 一行にする ☒ フィールドごとに行を分ける

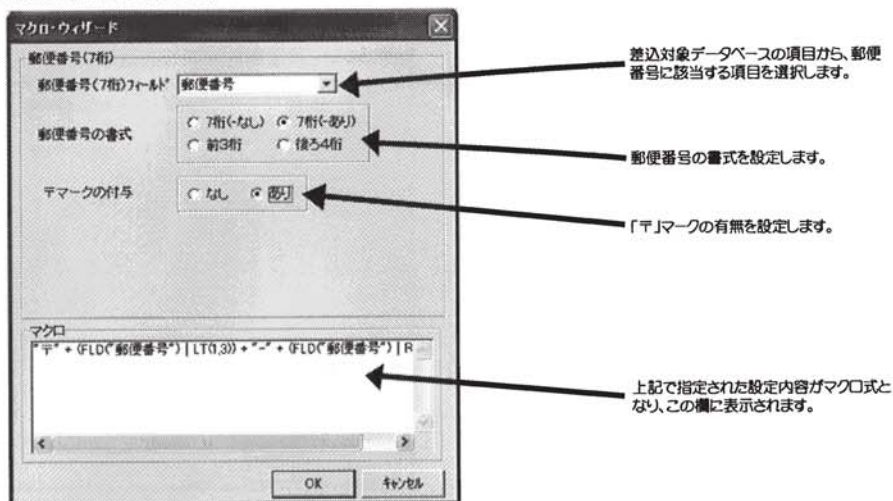
東京都
港区白金台0-0-0
〇〇〇マンション505

● 差込データの7桁の郵便番号を加工します。

「160-0008」の郵便番号をハガキや封筒の郵便番号欄に印刷する時には、「-」は不要です。また、ラベルに印刷する場合には「-」は必要になり、郵便番号の前に「〒」マークを付けたい場合があります。郵便番号の加工とは7桁の差込データを色々な形に加工することができます。

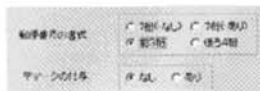


①「自動生成マクロの種類」の中から「新郵便番号(7桁)」を選択し、「ウィザード実行」ボタンをクリックしてください。



②設定ができたら、「OK」ボタンをクリックしてください。
郵便番号項目が設定した状態で貼り付けました。

〒123-4567



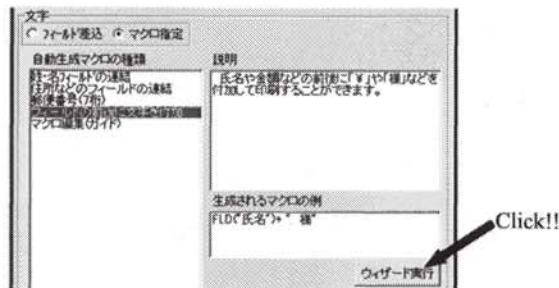
→ 123



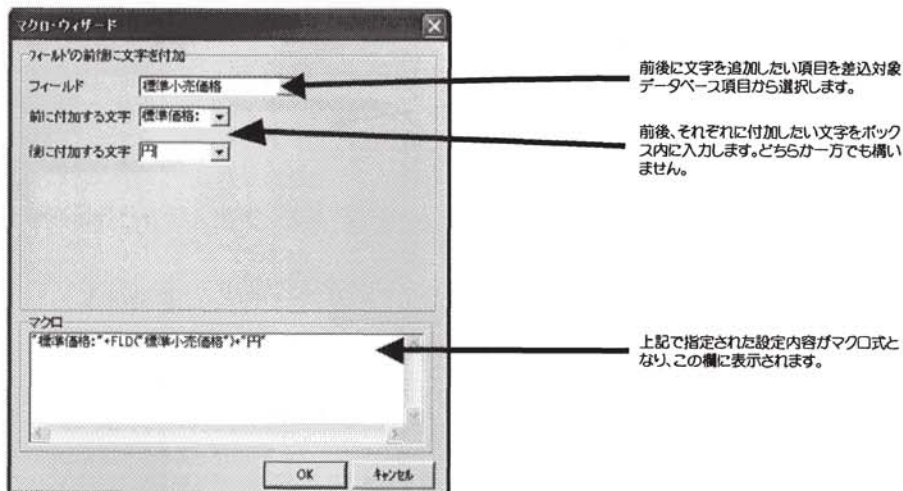
→ 4567

● 差分データの項目の前後に文字を追加する。

差分データには価格(数値)のみが登録されているが、作成時には値段の前に「標準価格」を後には「円」を入たい。こうしたニーズに応えるのが、差分データの前後文字を追加する機能です。



①「自動生成マクロの種類」の中から「フィールドの前後に文字を追加」を選択し、「ウィザード実行」ボタンをクリックしてください。



②設定ができましたら、「OK」ボタンをクリックしてください。
実際のデータには価格の数値だけが登録されていなくても、加工することにより、下図のように貼りつけることができます。

標準価格：9800円：

■ 差込データの種類: バーコード

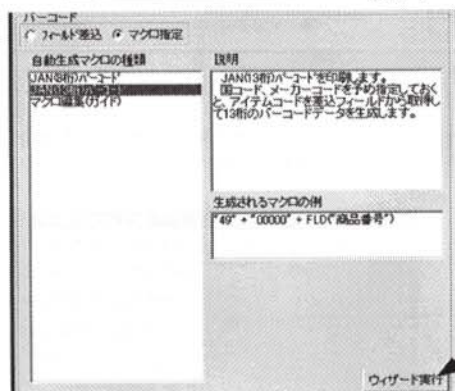


● JAN(8桁・13桁)バーコード

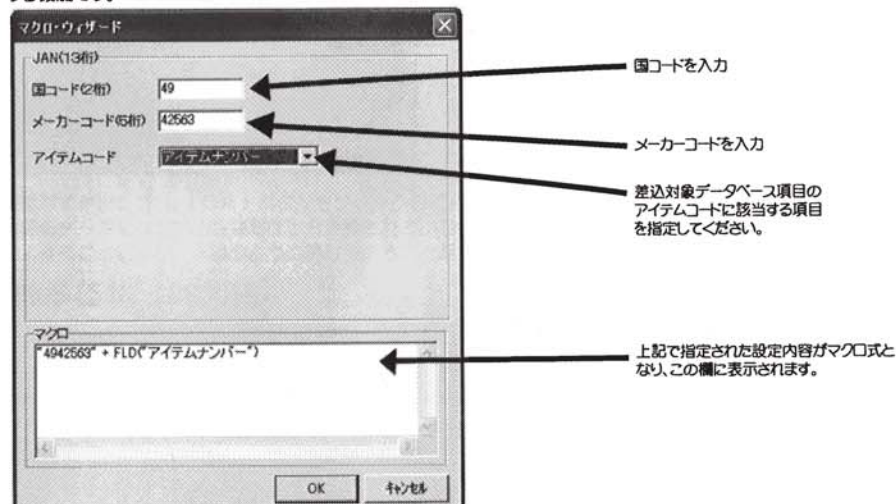
JANコードの数値には、国やメーカー別に決められた桁があります。

(例) 49 42563 00000 ●

チェックデジット
アイテムコード
メーカーコード
国コード



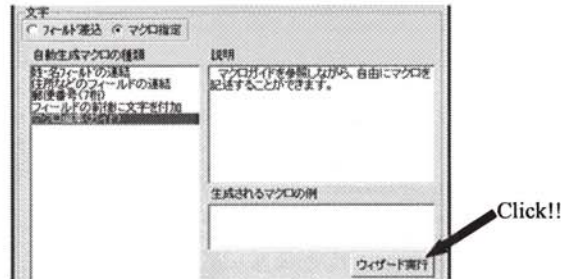
①ここで行う「自動生成マクロ」は差込データベースのデータに「アイテムコード」だけしか登録されていない場合に、決められた「国コード」や「メーカーコード」を追加してバーコードを生成する機能です。



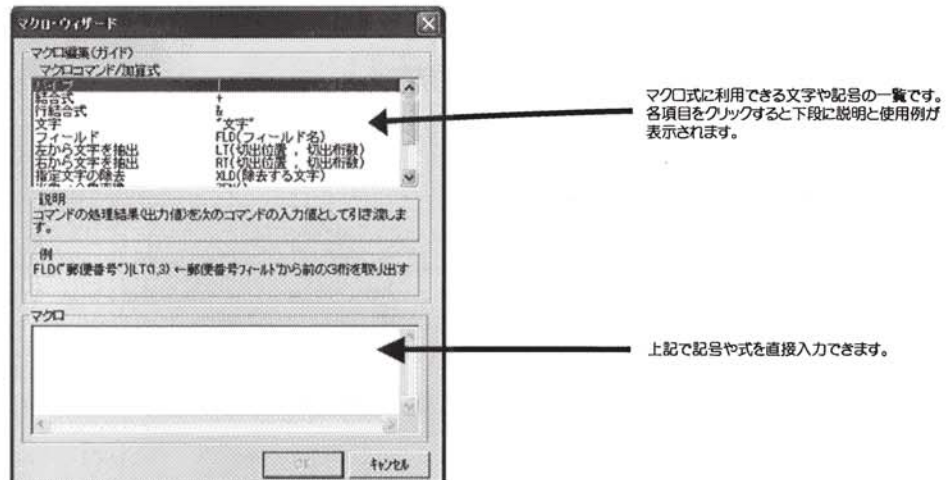
②設定ができたら、「OK」ボタンをクリックしてください。ラベル面にバーコードが生成され貼り付きました。操作方法は8桁・13桁に共通です。

●マクロ編集(ガイド)

差込種類(文字・バーコード)を問わず使用できます。当ソフトで使用可能なマクロ式のコマンド(記号や用語)が収録されており、その使用例も見ることができます。



この機能は、マクロの説明とともに、下欄にマクロ式を直接記述できるため、マクロウィザードには無いデータ加工を可能にしてくれます。また、マクロウィザードを使用した場合も、必ずダイアログの下段にウィザードで作成したマクロ式が表示されるようになっています。これらを組み合わせることにより、比較的簡単に意に沿った形のマクロ式が作成できます。

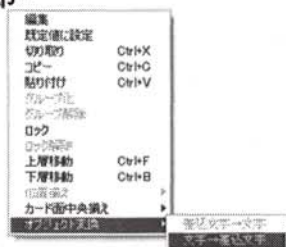


7-3 通常の文字を差込文字に変換する（オブジェクト変換機能）

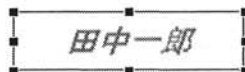
通常の文字オブジェクトを使用して作成されたレイアウトフォームの文字列にデータベースデータ内の項目を割り当てることができる機能です。

- ①まず、通常のオブジェクトで構成されたレイアウトデータを開いてください。
- ②次に、オブジェクトツールバーの「データ差込」ボタンからデータベースファイルの指定を行います。「差込データベース設定」ダイアログで設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックします。
- ③通常に差込を行う場合には、ここでカード面上に範囲を指定しましたが、ここではデータベース項目に割り当てたい文字列を選択し、マウスの右ボタンを押してください。ポップアップメニューが表示されますのでメニューの中から「オブジェクト変換」>「文字→差込文字」をクリックするか、メニューバーの「オブジェクト」>「オブジェクト変換」をクリックしてください。

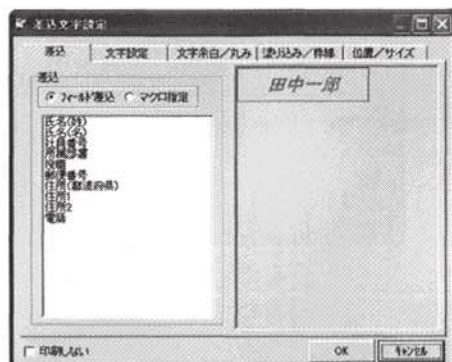
田中一郎



- ④下図のように「赤い枠」で文字が囲まれた表示に変わりました。



- ⑤次にこの「赤い枠」の付いた文字オブジェクトをダブルクリックします。下図のダイアログが表示されました。



- ⑥ダイアログ中の左枠に先ほど指定したデータベースファイル内の項目が一覧されています。該当する項目を選択してください。右枠に「1件目のデータ」がプレビューされます。
- ⑦よろしければ [OK] ボタンをクリックしてください。カード面上にデータベースが貼り付けました。
- ⑧これとは逆に差込文字を通常の文字に変換することもできますが、その場合その項目が持っている「項目名」が貼り付いてしまいます。

Memo

デザイン・レイアウト補助機能の使用法

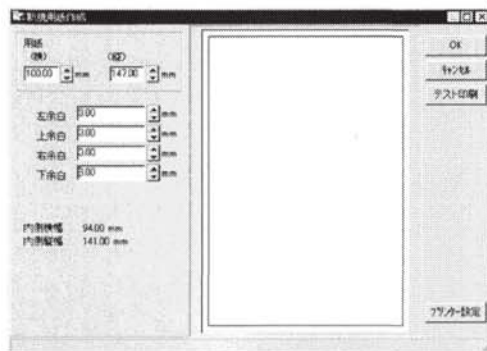
前章では「ImageCreate DBL Ver1.1」で作成できるオブジェクトについて説明しました。この章では作成したオブジェクトを簡単・正確にレイアウトするための機能や、新規用紙の設計、テンプレート機能について説明していきたいと思います。

1. 用紙の登録と変更

「ImageCreate DBL Ver1.1」の起動時や<ファイル>-<用紙設定>で開く用紙設定ダイアログで、ご希望の用紙が見つからない場合には自分で新しく登録することができます。また、既に登録されている用紙の変更、削除は次の手順で行ってください。

1-1 新しく用紙を登録する

- ①まず、用紙設定ダイアログで[新規作成]ボタンをクリックします。次のような新規用紙作成ダイアログが表示されます。



- ②次の各項目をそれぞれ指定してください。

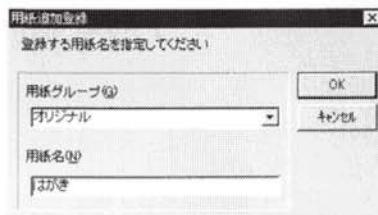
◎「用紙」

用紙サイズ（横、縦）を指定します。用紙縦・横のサイズをミリメートルの単位で指定します。

◎「余白」（左・上・右・下）

用紙四辺の余白を設定します。設定された余白はレイアウト画面上青い線で表示されますので、ご使用になるプリンタの印字マージンを入力しておくレイアウト時の目安になります。

- ③指定できましたら[OK]ボタンを押してください。用紙を登録するための用紙追加登録ダイアログが表示されます。



- ④グループ名を既存のものから選択するか、新規名称を入力し、用紙名を適当に入力してください。[OK] ボタンクリックにて新規用紙登録完了です。



注意!!

Windows NT4.0/2000/XP 環境で
用紙登録を行なう場合…

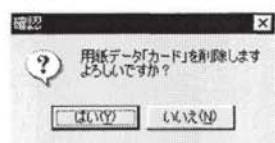
Windows NT4.0/2000/XP などのマルチユーザー対応 OS を使用して用紙情報の新規登録、削除、変更を行なう場合、管理者権限または同等の権限を持つユーザーでログインする必要があります。

1-2 登録されている用紙を変更する

- ①用紙設定ダイアログで、[修正]ボタンをクリックします。用紙修正ダイアログが表示されます。
- ②ここで、修正を行い[OK]ボタンをクリックすると、すでに登録されている用紙の設計を変更することが出来ます。なお、[元に戻す]ボタンは、任意に変更したデータ（設定値）を、初期状態に戻せます。

1-3 登録されている用紙データを削除する

- ①用紙設定ダイアログで、削除する用紙を選択して、[削除]ボタンをクリックします。

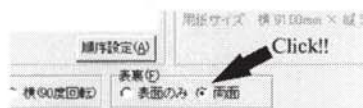


- ②上図の確認のダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックすると、選択した用紙を削除します。

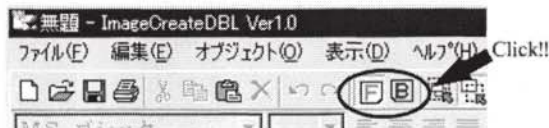
2. 裏面デザイン設定と表示切替

裏面用として別のファイルを作成すれば印刷に関しては特に問題はないのですが、データの管理上、表面・裏面は一体になっていたほうが良い場合があります。この項では裏面デザインの方法について説明しましょう。

- ①新規作成時に表示される用紙設定ダイアログで用紙を選択する際に、ダイアログ下部の[表裏]ボックスを<両面>にチェックします。



- ②チェックをしたら< OK >ボタンをクリックしますと、レイアウト画面が表示され、上部ツールバーの<表><裏>ボタンが有効になります。このボタンを切り替えることで表面の表示と裏面の表示を切り替えることができます。



- ③オブジェクトの作成や貼り付け、レイアウト自体は表面の動作とまったく同様です。表裏面共にデザインを行ってください。

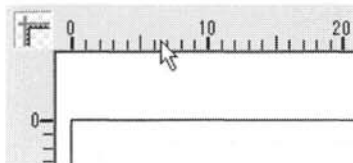
3. グリッド・ガイドバー機能

この項では、作成した各種オブジェクトをラベル面に正確に配置する方法のひとつガイドバーとグリッド機能について説明します。

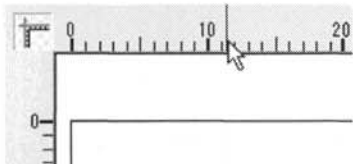
3-1 ガイドバー機能

ガイドバー機能はオブジェクトを正確な位置に配置するための補助線を引く機能です。複数のオブジェクトを同一線上にきちんと並べたり、等間隔で線を描画したりする時に、手軽に使用して便利な機能です。

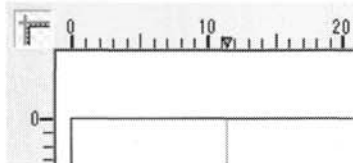
- ① それでは、ガイドバーの使用方法を説明します。画面上の横定規（ルーラー）部分にマウスポインタを当ててください。



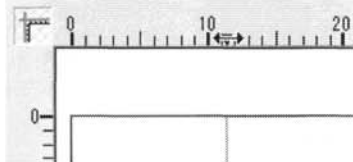
- ② 定規の上でマウスの左ボタンを押し、押したままマウスを移動してください。



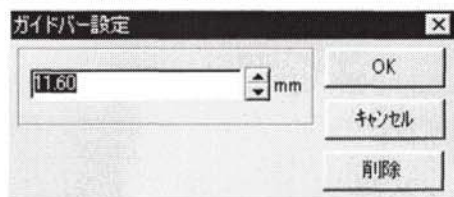
- ③ 淡い色の線が表示され、マウスの動きに合わせて移動します。定規を見ながら補助線を引きたい位置まで移動します。位置が決まりましたら、マウスの左ボタンを離してください。



- ④ 定規の上に赤い三角マークが表示され、ラベル上に赤い線が引かれました。正確な位置に引きたい場合にはマウス操作ではなく、数値で指定することもできます。定規上に表示された赤い三角の上にマウスポインタを合せると、マウスの形状が変わります。その状態でダブルクリックしてください。



- ⑤上図のような「ガイドバー設定」ダイアログが開き、ボックス内には、マウス操作で引いたガイドバーの位置が数値で表示されています。では、ボックスに正確な数値を入力してください。入力したら[OK]ボタンをクリックしてください。正確な位置にガイドバーが移動しました。



- ⑥ガイドバーをマウスで移動させる時には、定規上の赤い三角の上にマウスを当て、左ボタンを押しながら定規上で移動してください。縦定規でも同様にガイドバーを設定できます。

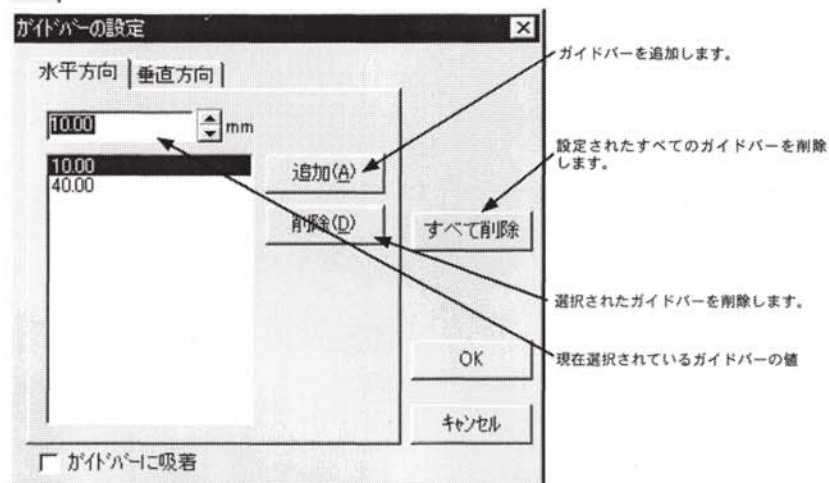
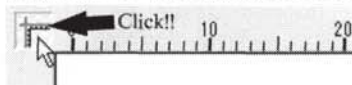
■ガイドバーにオブジェクトを吸着させる



ガイドバーを配置後、ツールバーの上図ボタンをクリックすると、オブジェクトの移動時にガイドバー付近にオブジェクトが近づくと、配置されたガイドバーにオブジェクトが吸い着くようになります。複数のオブジェクトをきちんと揃えて配置するときなどに役立ちます。押されている状態のこのボタンを再度クリックすると吸着が解除されます。

■複数のガイドバーを一度に指定する

縦の定規と横の定規の交差する部分にある「ガイドバー設定」ボタンをクリックしてください。下記のダイアログが表示され、縦横一度に複数のガイドバーを設定することができ、また、設定したガイドバーを一度に削除することもできます。



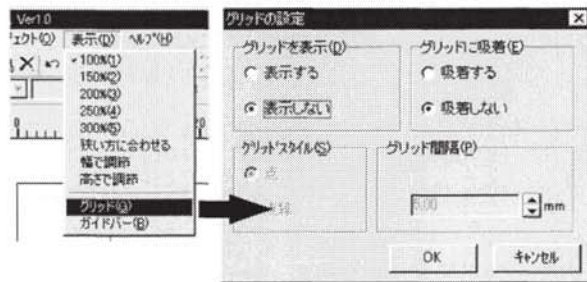
■ガイドバーの削除

上記ダイアログの削除ボタンから削除もできますが、レイアウト画面上に配置したガイドバーをルーラーの端（用紙の外）までドラッグしていくことにより、そのガイドバーだけを削除できます。

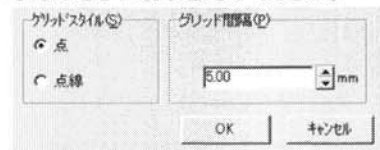
3-2 グリッド機能

次に、もうひとつのレイアウト補助機能「グリッド機能」について説明しておきましょう。グリッド機能とは、ラベル面に方眼を作成する機能で、正確なレイアウトに欠かせない補助機能です。方眼は 0.01 mm 単位で設定できるため、補助機能を超えて、精密な作業になくてはならない働きをします。

- ① それでは、グリッドの設定をしてみましょう。メニューバーの「表示」をクリックし「グリッド」を選択してください。



- ② 「グリッドの設定」ダイアログが表示されました。「グリッドを表示」の項には「表示しない」にボタンがついていますので、「表示する」に切り替えてください。



- ③ 切り替えると、「グリッドスタイル」「グリッド間隔」が設定できるようになりました。それでは、「グリッドスタイル」「グリッド間隔」の設定をしてみましょう。「グリッドスタイル」は「点」のままで、「グリッド間隔」の値は「2.00mm」にします。画面上にグリッドが表示されました。

■作成したオブジェクトをグリッドに吸着させる



ガイドバーと同様の機能です。

4. オブジェクトの整列機能とカード面中央配置

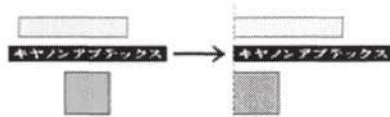
「ImageCreate DBL Ver1.1」には、複数のオブジェクトを左・右・上・下などをあわせて自動的に整列させる[位置揃え]機能と、選択したオブジェクトをカードの左右・上下の中央に自動的に配置する[カード面中央揃え]機能が搭載されています。この機能によりスピーディーで正確なレイアウトが簡単にできます。

4-1 オブジェクト整列機能 [位置揃え]

たくさんのオブジェクトをカード面上にマウスだけを使って正確に配置するのはとても難しいことです。当ソフトではガイドバーやグリッドに加え、[位置揃え]機能を備えています。

●整列配置をしたいオブジェクト(複数)を選択し、メニューバーの<オブジェクト>-><位置揃え>のサブメニューから、目的とするものを選択します。

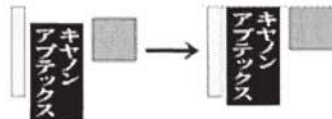
◎左揃え



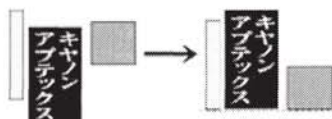
◎右揃え



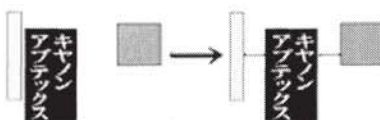
◎上揃え



◎下揃え



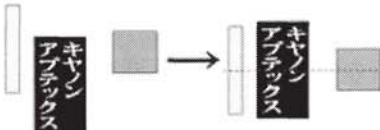
◎水平等間隔



◎垂直等間隔



◎上下中央



◎左右中央



4-2 カード面中央揃え

- ①移動したいオブジェクトを選択状態にします。
- ②メニューから、<オブジェクト>-<用紙面中央揃え>を選ぶと、次のサブメニューが開きます。

◎<上下中央>

カード（用紙）面の縦方向の中央にオブジェクトを移動します。

◎<左右中央>

カード（用紙）面の横方向の中央にオブジェクトを移動します。

◎<上下左右>

カード（用紙）面の完全な中央（縦・横方向の中央）にオブジェクトを移動します。

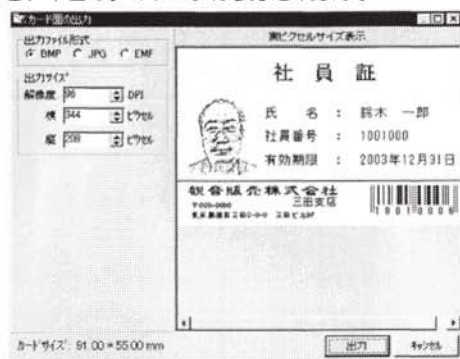
なお、この機能はオブジェクトが選択されていないときは使用できません。また、複数オブジェクト選択時は、選択されている複数オブジェクトごと移動します。

5. カード面出力機能

「ImageCreate DBL Ver1.1」には、付属機能として作成したカード面を画像ファイル（BMP／JPG／EMF）に保存することができる機能が搭載されています。

ワープロソフトで作成した文書などに名刺を貼り付けたい時、E-mailで名刺そのものを送りたい時。この機能を使用すれば作成したカードを画像データに保存し、ワープロソフトに貼り付けたり、メールの添付ファイルとして利用することができます。

- ①まず、既存のファイルを開くか、新規にカードを作成し、デザイン表示画面を表示します。
- ②メニューバーの<ファイル>から<カード面出力>を選択すると、下図のダイアログが表示されます。



- ③[出力ファイル形式]を選択します。メールの添付ファイルに使用するならば圧縮形式の「JPG」を選択するとファイルサイズが小さくて済み、メール転送時間が短縮できます。



- ④[JPG]を選択すると下部に<品質プレビュー>ボタンが表示されます。これは圧縮率を設定するボタンです。クリックすると次のダイアログが表示されます。バーを左右に操作することで出力画像品質（圧縮率）の設定が可能です。



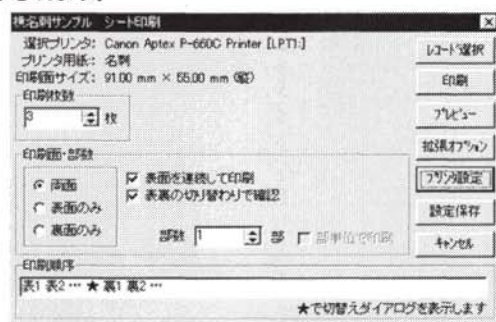
- ⑤画像形式及び出力サイズが設定できましたら[出力]ボタンをクリックします。
- ⑥ Windows 標準の保存ダイアログが表示されますので保存先を指定して、[保存]ボタンをクリックしてください。

印刷機能ガイド／その他

最後に作成したデータの印刷と、その他の設定について説明しましょう。当ソフトの印刷には単なる「シート印刷」とデータベースデータが差し込まれた時に使用される「レコード印刷」の2つに大別されます。この章では印刷機能についてと、これまでの章で説明できなかった「環境設定」、「添付されているサンプルファイルの使用法」などについて説明していきます。

1. 印刷機能

ツールバーの上記ボタンをクリックするか、メニューバーの<ファイル>から<印刷>を選択してください。下図のようなダイアログが表示されます。



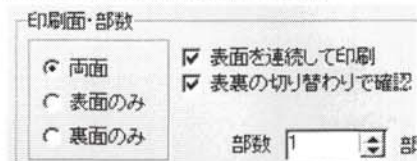
◎印刷枚数

差込オブジェクトが存在する場合には、差込データの件数分（レコード数）が表示されます。

同じ内容のシートを複数枚印刷する場合は「部数」で枚数を指定します。

◎印刷面

作成データに両面のデザインがされていると両面・表面・裏面のいずれかを選択できます。また、両面の際にはオプションとして「表面を連続して印刷」と「表裏の切り替わりで確認」のボタンが有効になります。「表面を連続して印刷」はチェックがされていないと表・裏・表・裏・・・と印刷されることを表面を印刷部数分先に印刷し、その後裏を同部数分印刷するモードです。通常はチェックを入れた状態で印刷されるほうが良いでしょう。「表裏の切り替わりで確認」は表の印刷が終わった時点で確認ダイアログが表示されるモードです。このダイアログを確認して用紙を裏返し再度印刷を開始します。これもチェックして印刷するほうが便利です。



◎部数

今回印刷する用紙の部数（コピー枚数）を入力します。また、「部数」を複数部数にすると、「部単位で印刷」のオプションが有効になります。但し、このオプションが有効なデータは差込オブジェクトがある場合だけです。この「部単位で印刷」オプションにチェックをして印刷すると、たとえば、1番目から20番目までのレコードを部数「2」で印刷した場合、1番目から20番目までを「1部」として考え、これを2部分（2回繰り返し）印刷されることになります。

◎レコード選択ボタン

データベースデータが差込オブジェクトとして貼りつけてあるカードを印刷する時に、表示されるボタンです。ボタンをクリックすると差込データベースのデータが一覧できますので、印刷対象にしたいレコードを選択し、印刷枚数を指定して印刷することができます。（初期値ではすべてのデータが選択された状態で、印刷枚数が「1」になっています）

レコード番号	社会番号	氏名	住所	部署名1	部署名2	部署名3	役職	誕生日
1	000001	田中 一郎	〒123-4567	営業部	営業1課		課長	000-0000
1	000002	田中 次郎	〒123-4567	経理本部	経理1課		主任	000-0000
1	000003	佐藤 花子	〒123-4567	総務部	総務1課		主任	000-0000

1-2 Page: 3 印刷枚数: 3

■全選択ボタン

表示されたすべてのレコードを選択状態（印刷対象）にします。（初期値）

■全解除ボタン

表示されたすべてのレコードの選択状態をクリアします。

■必要なレコードだけを選択する

全解除ボタンですべての選択状態を解除し、マウスで必要なレコードを選択します。

レコード番号	社会番号	氏名	住所	部署名1	部署名2	部署名3	役職	誕生日
05	000001	田中 一郎	〒123-4567	営業部	営業1課		課長	000-0000
1	000002	田中 次郎	〒123-4567	経理本部	経理1課		主任	000-0000
06	000003	佐藤 花子	〒123-4567	総務部	総務1課		主任	000-0000

1-2 Page: 2 印刷枚数: 70

■枚数指定ボタン

選択された各レコードの印刷枚数を個別にすることができます。

印刷枚数	社員番号	氏名	3/27	部署名1	部署名2	部署名3	職種	郵便番号
000001	鈴木 一郎	スズキ イチロウ	営業部	営業1課			課長	000-0000
000002	佐藤 花子	サウハチ	総務部	総務課				000-0000

印刷枚数: 70

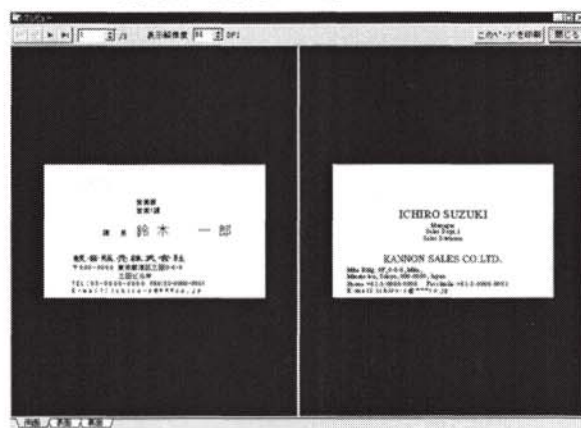
OK キャンセル

◎印刷ボタン

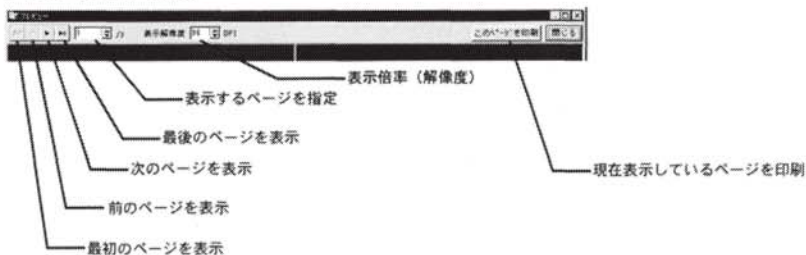
このボタンをクリックすると印刷が開始されます。

◎プレビューボタン

このボタンをクリックすると、これから印刷しようとしているファイルの印刷結果が表示されます。



この画面の上部には、次のようにここでの操作を行うためのボタンが並んでいます。

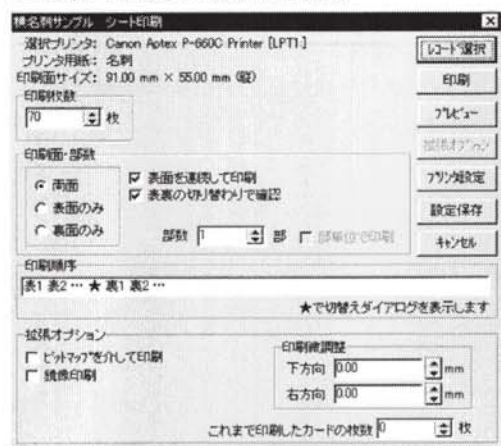


「表示の倍率」はDPI (Dot Per Inch の略、1 インチに何ドット表示・印刷できるかという単位) で表現されています。値が小さければ小さいほど縮小されて表示されます。また、表示倍率はマウス操作だけで変更できます。左クリックで拡大。右クリックで縮小します。

また、両面印刷の際には下部にタブが表示され表示面を選択することができます。

◎オプションボタン

このボタンをクリックすると印刷ダイアログが下に延び、オプション項目の設定が可能になります。



■ビットマップを介して印刷

当プログラム内で作成したカード面そのものを、ビットマップイメージとして変換して印刷を行います。このオプションは「鏡像印刷」と合わせて指定しますので、単独で指定する必要はありません。

■鏡像印刷

このオプションにチェックをして印刷すると、デザインしたカード面の左右が逆 (鏡像) になって印刷されます。これは、バックプリントともいわれる機能で、透明なカードの粘着面側に印刷する場合などに使用されます。

■印刷微調整

このボックスに数値を入力すると、用紙への印刷位置を上下左右に調整することができます。

■これまで印刷したカードの枚数

これまでに印刷したカード数を入力します。これは作成したカードにナンバリングオブジェクトやナンバリングバーコードオブジェクトが貼り付けられているときに、ナンバリング開始数値を、ここで入力した数値の次の値から開始することができる機能です。

◎プリンタの設定ボタン

今回印刷するプリンタの諸設定をする機能です。

◎設定保存ボタン

この印刷ダイアログで設定したすべての情報を、ファイルに添付して保存します。次回同じファイルを開き、印刷する時には

この設定情報が保存されていますので、再度設定する必要はありません。但し、プリンタの変更や使用する用紙サイズの変更を行った場合には設定は解除されてしまいます。

2. 環境設定

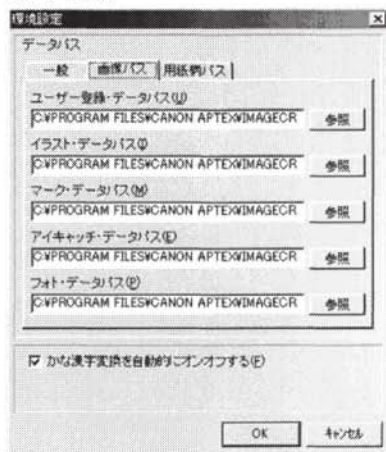
「ImageCreate DBL Ver1.1」では、作成したデザインや画像などのデータが格納されているフォルダをパスによって指定できます。



■[一般]タブ

◎「データパス」

<ファイル>><開く>や<ファイル>><新規保存>を実行する際に、そのフォルダが常に表示されるように指定するパス（フォルダ）です。



■[画像パス]タブ

◎「ユーザー登録・データパス」

<オブジェクト>><イラスト>を実行し、描画場所決定後に表示される、「画像一覧」の「ユーザー登録」で表示される画像を格納しているパスです。「他フォルダ」のページで[ユーザー登録]ボタンをクリックしたときも、その画像データはこのパスに格納されます。



注意!!

Windows NT4.0/2000/XP 環境で

環境設定を変更する場合...

Windows NT4.0/2000/XP などマルチユーザー対応 OS をご使用の場合、環境設定の変更は管理者権限または同等の権限を持つユーザーでログインする必要があります。



注意!!

画像データの環境設定について

当ソフトには約 1000 点以上の画像データと 500 点のカード柄データが収録されています。インストールの際に「標準インストール」や「カスタム」インストールで、これらの画像をすべてインストールした方は、自動的にインストール先の所定の場所にデータパスをとりませんが、インストールされなかった方は CD-ROM にパスが設定されます。従って、画像データを使用する際には必ず CD-ROM を挿入してご使用にならなければなりません。また、画像データのみを後からカスタムインストールでインストールすれば自動的にパスは設定されます。

◎「イラスト・データパス」

<オブジェクト><画像>を実行し、描画場所決定後に表示される、「画像一覧」の「イラスト」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「マーク・データパス」

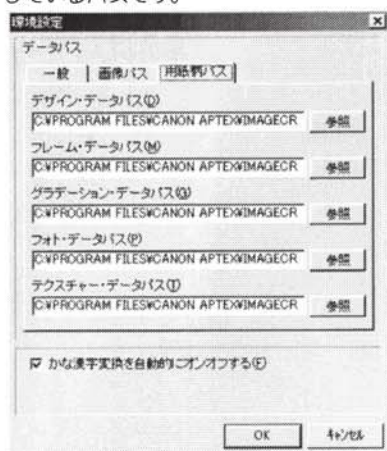
<オブジェクト><画像>を実行し、描画場所決定後に表示される、「画像一覧」の「マーク」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「アイキャッチ・データパス」

<オブジェクト><画像>を実行し、描画場所決定後に表示される、「画像一覧」の「アイキャッチ」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「フォト・データパス」

<オブジェクト><画像>を実行し、描画場所決定後に表示される、「画像一覧」の「フォト」ページで表示される画像を格納しているパスです。



■[用紙柄パス]タブ

◎「デザイン・データパス」

<オブジェクト><カード柄貼付>を実行し、「デザイン」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「フレーム・データパス」

<オブジェクト><カード柄貼付>を実行し、「フレーム」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「グラデーション・データパス」

<オブジェクト><カード柄貼付>を実行し、「グラデーション」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「フォト・データパス」

<オブジェクト><カード柄貼付>を実行し、「フォト」ページで表示される画像を格納しているパスです。

◎「テキスト・データパス」

<オブジェクト><カード柄貼付>を実行し、「テキスト」ページで表示される画像を格納しているパスです。

それぞれのパス名は変更することができ、例えばデータパスを変更すれば既存ファイルを開いたり、新しく作成したファイルを保存したりする時に、常に設定されたフォルダが開くようになります。また、画像データを CD-ROM からコピーされた場合も上記「イラスト・マーク・アイキャッチ」データのパスを設定する必要があります。

変更方法は、直接パスを入力する以外に、[参照] ボタンをクリックすると開く下図のダイアログでも変更ができます。

◎「かな漢字変換を自動的にオンオフする」

これにチェックマークを付けると、文字列入力の必要のあるダイアログが表示されるときに、自動的にかな漢字変換をオン・オフします。

詳しくは、「制限事項・注意事項」の＜日本語の入力＞を参照ください。

3. 添付のサンプルデータについて

当ソフトには差込オブジェクトを使用したサンプルデータが付属されています。次の手順でサンプルデータを開き、エクセルまたはアクセスのファイルを接続してください。また、エクセルやアクセスのファイルの作成サンプルとしてご参照ください。

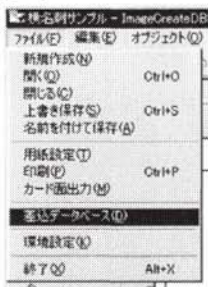
- ①サンプルデータは当プログラムフォルダの「MyCard」フォルダ内に「Samples」フォルダとして格納されています。プログラム起動後、「既存のファイルを開く」で格納されたサンプルファイルを開いてください。

(ここでは「横名刺サンプル .IDD」を開きます)

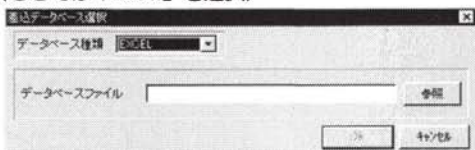


- ②上図のように開いたファイルには赤い枠が配置され、文字列は表示されません。エクセル（アクセス）のファイルを接続してみましょう。

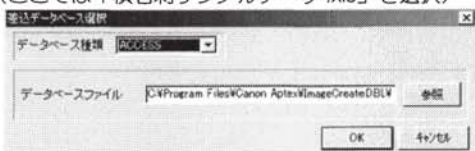
- ③メニューの<ファイル><差込データベース>を選択してください。



- ④[差込データベース選択]ダイアログが表示されました。まずは「データベースの種類」を選択します。
(ここでは「Excel」を選択)



- ⑤次に<参照>ボタンをクリックして同様のフォルダから先ほど開いたサンプルファイルと同名のファイルを選択します。
(ここでは「横名刺サンプルデータ.xls」を選択)



- ⑥選択できたら<OK>ボタンをクリックします。次のダイアログが表示されますので、そのまま<OK>ボタンをクリックしてみましょう。
⑦先ほど開いたレイアウトデータにエクセル（アクセス）のデータが配置されました。



制限事項／注意事項

1.画面の色について

「ImageCreate DBL」に収録されている画像（イラスト/マーク/アイキャッチ/フォト）はすべて印刷時の品質を良くするために各データファイル毎に固有のパレット（256色）を持っています。このパレットはディスプレイの設定時に選択できるカラーパレットの「256色」とは色数は同じでも違う色が選択されているパレットです。そのためディスプレイのカラーパレットに「256色」が選択されている場合、正常に表示できないものが出てきます。また、ひとつの画像を貼り付けた時には正常に表示していても、複数の画像を貼り付けると同じ画像を使用しているものの表示が正しくされないことがあります。

このままの状態でも印刷しても印刷には特に影響はありませんが、レイアウト時にどんな色の画像なのか分からないことがありますので、ディスプレイのカラーパレットの設定を256色を超える設定（High ColorあるいはTrue Color）にしてご使用になることをお奨めします。

2.システムフォントについて

「ImageCreate DBL」では、Windowsのシステムフォントが「小さいフォント」以外に設定されていると、画面が切れたり、ボタンが正しく表示されないことがあります。システムフォントが「小さいフォント」になっていることをご確認の上、ご使用ください。なお、システムフォントの変更はWindowsのコントロールパネル内の[画面]アイコンをダブルクリックし、＜設定＞タブの中から変更が可能です。

3.添付されている画像データについて

「ImageCreate DBL」に添付されている画像データを、最小インストールまたはカスタムインストールによってインストールしなかった場合、画像データを使用する際には、CD-ROMドライブにCD-ROMを挿入してから、画像選択ボタンをクリックして作業を行ってください。また、後から画像をカスタムインストールで追加インストールする場合には毎度セットアップメニューを起動し、必要な画像だけにチェックを付けインストール作業を行うと、環境設定のパスは自動的に変更されます。必要な分だけをCD-ROMからハードディスクへコピーして使用する場合には、環境設定で画像のコピー先にパスの設定をする必要があります。

4.データ差込機能について

「ImageCreate DBL」に搭載されているデータ差込機能では、Office95/97/2000/XP/2003/2007、Access/Excelのいずれかがインストールされていないと、Access/Excelファイルを扱うことはできません。また、当機能を使用するPCにインストールされているOffice/Access/Excelのバージョンと、差込対象となるファイルを作成したバージョンが同一でないと正常に動作しません。

5.オブジェクトの上限

ひとつのデザインデータに配置できるオブジェクトの数は、メモリまたはディスクの空き容量がゆるす限り作成できます。メモリが少ないパソコンやディスクの空き容量が少ないパソコンでは、作成できないことがあります。このような場合は、まずディスクの空き容量を増やしてください。それでも作成できない場合は、メモリ増設の必要があるか、Windowsの設定が誤っていることが考えられます。

6.フォントについて

デザインウィンドウに表示される文字は、表示倍率にしたがって表示されますが、指定されているフォントの種類やサイズによっては、正しいサイズで表示されないことがあります。

7.印刷時の文字化けについて

デザインデータを他のパソコンに移行し印刷した場合、デザインウィンドウに表示されている文字と印刷した時の文字フォントが異なることがあります。これは、データ作成時に指定したフォントが印刷しようとしているパソコンに存在しないか、そのとき使用したプリンタで使用できないフォントであるためです。このような場合は、作成時にご使用のフォントも移行するか、その環境に存在するフォントに変更する必要があります。

8.フロッピーディスクへの保存について

「ImageCreate DBL」で作成されるデータファイルのサイズはフロッピーディスクに収納できるサイズ(FDは1.25または1.44MB)を超えることがあります。特に画像ファイルを貼り付けた場合、その画像ファイルが持つデータサイズ分ファイルサイズが大きくなりますので、直接FDへの書き込みもできますが、ファイルサイズが確認できないままでの保存はできるだけしないでください。FDに保存される際には一度ハードディスクへ保存しエクスプローラでファイルサイズの確認をされた後、FDへコピーまたは移動することをお奨めします。

9.印刷時のディスク容量

大きなサイズの画像を複数貼り付けたり、印刷部数を多く設定する時などには、必ずプリンタのスプール先(通常はWindowsのインストールされているドライブ)の容量が確保されていることをご確認ください。空き容量が確保されていないまま印刷作業をすると、エラーの原因になったり正常に印刷されなかったりします。Windowsのバージョンによってはシステムがハングアップすることがあります。

10.日本語の入力

全角の文字を入力する場合は、必要に応じてかな漢字変換を自動的にオン/オフしますが、状況によってはお客様自身でかな漢字変換をオン/オフする必要があります。かな漢字変換は、NEC PC9800系ではCRL+XFERキーで、IBM系(DOS/V機など)ではALT+漢字キーで切り替えることができます。

これらの操作でかな漢字変換が切り替えられない場合は、お使いのWindows環境に正しく日本語入力システムが組み込まれていないことが考えられます。Windowsのコントロールパネルにある<キーボード>を起動し、<言語>タブの設定を確認してください。

また、かな漢字変換の自動ON/OFFは<ファイル> - <環境設定>で変更することができます。

11.カットアンドペーストについて

他ソフトなどからカットアンドペーストでオブジェクトの貼り付けをする際、<メニュー> - <編集> - <形式を選択して貼り付け>を行うと各画像データは以下の形式で貼り付けられます。

形式を選択して貼り付け変換一覧

読み込みファイル形式	JPG	EMF	WMF	BMP	TIF	ICO	GIF
ImageCreateDBL形式	JPG	EMF	WMF	BMP	TIF	ICO	GIF
DIB	BMP	BMP	EMF	BMP	BMP	BMP	BMP
ビットマップ	BMP	BMP	BMP	BMP	BMP	BMP	BMP
拡張メタファイル(EMF)	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF
メタファイル(WMF)	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF	EMF

12.EMF画像について

Windows95/98環境で、レイアウト上にEMF画像を貼り付けてレコード印刷を行うと、印刷が中断してしまうことがあります。環境により異なりますが、その場合、100件程度を目安に作業を分けて印刷を行ってください。

For Windows

IMAGE CREATE DBL

イメージクリエイターディービーエル

カラーカードプリンタ対応 名刺作成ソフトウェア

USER'S MANUAL

開発元 キヤノンファインテック株式会社

販売元 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

ご注意

- 本製品および本書の全部、または一部を無断で複写、複製、転載、改変することは禁止されています。
- 本製品および本書は改良のため予告なく変更される場合があります。
- 本製品を運用した結果につきましては、上記にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- Canon、Canonロゴは、キヤノン株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

© CANON FINETECH INC. 2010

Pub No. 4Y1-8314-060